

歴代志略上

第一章ニアダム、セツ、エノスニケナン、マハラレル、ヤレドニ
 エノク、メトセラ、ラメク四ノア、セム、ハム、ヤペテ五ヤベテ
 の子等はゴメル、マゴグ、マデア、ヤウン、トバル、メセク、テ
 ラス六ゴメルの子等はアシケナズ、リパテ、トガルマセヤウンの
 子等はエリシヤ、タルシシ、キツテム、ドダニムハハムの子等は
 クシ、ミツライム、プテ、カナシクシの子等はセバ、ハビラ、
 サブタ、ラアマ、サブテカ、ラアマの子等はセバとデダンニ〇ク
 シ、ニムロデを生り彼はじめて世の権力ある者となれりニミツ
 ライムはルデ族アナミ族レハビ族ナフト族ニパテロス族カス
 ル族カフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たりニカナ
 シンその冢子シドンおよびヘテを生みニ四またエブス族アモリ族
 ギルガシ族ニ五ヒビ族アルキ族セニ族ニ六アルワ族ゼマリ族ハ
 マテ族を生りニ七セムの子等はエラム、アシユル、アルバクサデ、
 ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセクニ八アルバクサデ、シ
 ラを生みシラ、エベルを生りニ九エベルに二人の子生れたりその
 一人の名をベレゲ(分)と曰ふ其は彼の代に地の人散り分れた
 ればなりその弟の名をヨクタンと曰ふニ〇ヨクタンはアルモダ
 デ、シヤレフ、ハザルマウテ、エラニニハドラム、ウザル、デク
 ラニニエバル、アビマエル、シバニニオフル、ハビラおよびヨハブ
 を生り是等はみなヨクタンの子なりニ四セム、アルバクサデ、シ

ラニ五エベル、ベレゲ、リウニ六セルグ、ナホル、テラニモアブラ
 ム是すなはちアブラハムなりニ八アブラハムの子等はイサクお
 よびイシマエルニ九彼らの子孫は左のごとしイシマエルの冢子
 はネバヨテ次はケダル、アデビエル、ミブサムニ〇ミシマ、ドマ、
 マツサ、ハダデ、テマニニエトル、ネフシ、ケデマ、イシマエル
 の子孫は是の如しニ三アブラハムの妾ケトラの生る子は左のご
 とし彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シ
 ユワを生りヨクシヤンの子等はシバおよびデダンニ三ミデアン
 の子等はエバ、エペル、ヘノク、アビダ、エルダア是等はみなケ
 トラの生る子なりニ四アブラハム、イサクを生りイザクの子等は
 エサウとイスラエルニ五エサウの子等はエリバス、リウエル、エ
 ウシ、ヤラム、コラニ六エリバスの子等はテマン、オマル、ゼビ、
 ガタム、ケナズ、テムナ、アマレクニ七リウエルの子等はナハテ、
 ゼラ、シヤンマ、ミツザニ八セイの子等は口タン、シヨバル、チ
 ベオン、アナ、デシヨン、エゼル、デシヤンニ九口タンの子等は
 ホリとホمام、ロタンの妹はテムナニ四〇シヨバルの子等はアルヤ
 ン、マナハテ、エバル、シビ、オナム、チベオンの子等はアヤと
 アナニ四二アナの子等はデシヨン、デシヨンの子等はハムラム、エ
 シバン、イテラン、ケラン、四二エゼルの子等はビルハン、ザワ
 ン、ヤカン、デシヤンの子等はウズおよびアラン四三イスラエル
 の子孫を治むる王いまだ有ざる前にエドムの地を治めたる王等
 は左のごとしベオルの子ペラその都城の名はデナバといふ四四

ベラ薨てボズラのゼラの子ヨバブこれに代りて王となり四五ヨバブ薨てテマン人の地ホシヤムこれにかはりて王となり四六ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれにかはりて王となり彼モアブの野にてミテアン人を撃りその都城の名はアビテといふ四七ハダデ薨てマスレカのサムラこれに代りて王となり四八サムラ薨て河の旁なるレホボテのサウルこれに代りて王となり四九サウル薨てアクボルの子バルハナンこれに代りて王となり五〇バルハナン薨てハダデこれにかはりて王となりその都城の名はパイといふその妻はマテレデの女子にして名をメヘタベルといへりマテレデはメザハブの女なり五二ハダデも薨たりノエドムの諸侯は左のごとし、テムナ侯アルヤ侯エテテ侯五ニアホリバマ侯エラ侯ピノン侯五ニケナス侯テマン侯ミブザル侯五四マグデエル侯イラム侯エドムの諸侯は是のごとし

第二章 イスラエルの子等は左のごとしルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルンニダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセルニユダの子等はエル、オナン、シラなりこの三人はカナンの女バテシユアがユダによりて生たるなりユダの長子エルはエホバの前に悪き事をなしたれば之を殺したまへり四ユダの嫡タマルはユダによりてベレツとゼラとを生りユダの子等は都合五人なりき五ペレツの子等はヘツロンおよびハムル六ゼラの子等はジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ都合五人七カルミの子はアカル、アカルは詛はれし物につきて

罪を犯してイスラエルを悩ませし者なり八エタンの子はアザリヤルヘツロンに生れたる子等はエラメル、ラム、ケルバイ〇ラム、アミナダブを生みアミナダブ、ナシオンを生りナシオンはユダの子孫の牧伯なり二ナシオン、サルマを生みサルマ、ボアズを生み三ボアズ、オベデを生み、オベデ、エツサイを生り三エツサイの生る者は長子はエリアブその次はアミナダブその三はシヤンマ四その四はネタンエルその五はラダイ五その六はオゼムその七はダビデ六かれらの姉妹はゼルヤとアビガル、ゼルヤの産る子はアビシヤイ、ヨアブ、アサヘルあはせて三人七アビガルはアマサを産りアサの父はイシマエル人エテルといふ者なり八ヘツロンの子カレブはその妻アズバによりまたエリオテによりて子を擧げたりその産る子等は左のごとしエシル、シヨバブおよびアルドン九アズバ死たればカレブまたエフラタを娶れりエフラタ、カレブによりてホルを産り二〇ホル、ウリを生みウリ、ベザレルを生り二その後ヘツロンはギレアデの父マキルの女の所にいれりその之を娶れる時は六十歳なりき彼ヘツロンによりてセグブを産り三セグブ、ヤイルを生りヤイルはギレアデの地に邑二十三を有り三然るにゲシユルおよびアラム彼等よりヤイルの邑々およびケナテとその郷里など都合六十の邑を取り是皆ギレアデの父マキルの子等なりき四ヘツロン、カレブエフテタに死て後ヘツロンの妻アビヤその子アシユルを生りアシユルはテコアの父なり五ヘツロンの長子エラ

メルの子等は長子はラム次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤニ
 エラメルはまた他の妻をもてりその名をアタラといふ彼はオナ
 ムの母なりニモエラメルの子等はママツ、ヤミン、エ
 ケルニハオナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等は
 ナダブおよびアビシユルニアビシユルの妻の名はアビハイル
 といふ彼アバンおよびモリデを生りニナダブの子等はセレデ
 およびアツパム、セレデは子なくして死りニアツパムの子
 はイシ、イシの子はセシヤン、セシヤンの子はアヘライニシヤ
 ンマイの兄弟ヤダの子はエテルおよびヨナタン、エテルは子な
 くして死りニヨナタンの子等はベレテおよびザ、エラメル
 子孫は斯のごとしニセシヤンは男子なくして惟女子ありし
 みなるがセシヤンにヤルハと名くるエジプトの僕ありければ
 セシヤンその女をこの僕ヤルハに與へて妻となさしめたり彼
 ヤルハによりてアツタイを生りニアツタイ、ナタンを生みナタ
 ン、ザバデを生みニモザバデ、エフラルを生みエフラル、オベデ
 を生みニハオベデ、エヒウを生みエヒウ、アザリヤを生みニアザ
 リヤ、ヘレヅを生みヘレヅ、エレアサを生みニエレアサ、シス
 マイを生みシスマイ、シヤルムを生みニシヤルム、エカミヤを
 生みエカミヤ、エリシヤマを生りニエラメル兄弟カレブの
 子等はその長子をメシヤといふ是はジフの父なりジフの子は
 マレシヤ、マレシヤはヘブロンの父なりニヘブロンの子等はコ
 ラ、タツプア、レケム、シマシマはラハムを生りニラハムはヨ

ルカムの父なりレケムはシヤンマイを生りニシヤンマイの子
 はマオン、マオンはベテスルの父なりニカレブの妻エバでハ
 ラン、モザおよびガゼズを産りハランはガゼズを生りニエダ
 イの子等はレゲム、ヨタム、ゲシヤン、ペレテ、エバ、シヤフ四
 ハカレブの妻マアカはシベルおよびテルハナを生みニまたマ
 デマンの父シヤフおよびマクベナとギベアの父シワを生り
 カレブの女子はアクサといふ五〇カレブの子孫は左のごとしエ
 フラタの長子ホルの子はキリアテヤリムの父シヨバル五ニベテ
 レハムの父サルマおよびベテカデルの父ハレフ五ニキリアタヤ
 リムの父シヨバルの子等はハロエにメヌコテ人の半ニまたキ
 リアテヤリムの宗族はイテリ族ニシユマ族ニシラ族ニ是等
 よりザレア族およびエシタオル族出たり五四サルマの子孫はベ
 テレハム、ネットバ族ニアタロニベテヨアブ、マナハ族の半および
 ソリ族ニならびにヤベツに住る諸土の宗族すなはちテラ族
 シメアテ族ニスカテ族ニ是等はケ二人にしてレカブの家の先祖ハマ
 テより出たる者なり

第三章ニヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし長子
 はアムノンといひてエズレル人アヒノアムより生れ其次はダニ
 エルといひてカルメル人アビガルより生るニその三はアブサロ
 ムといひてゲシユルの王タルマイの女マアカの生る子其四は
 アドニヤといひてハギテの生る子なりニその五はシバテヤとい
 ひてアビタルより生れ其六はイテレアムといひて妻エグラより

生る四この六人へブロンにてかれに生れたりダビデ彼處にて王たりし事七年と六箇月またエルサレムにて王たりし事三十三年五エルサレムにて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバブ、ナタン、ソロモンこの四人はアンミエルの女バテシユアより生る六またイブハル、エリシヤマ、エリペレテ七ノガ、ネベグ、ヤピアハエリシヤマ、エリアダ、エリペレテの九人九是みなダビデの子なり此外にまた妾等の生る子等あり彼らの姉妹にタマルといふ者あり一〇ソロモンの子はレハベアムその子はアピヤその子はアサその子はヨシヤパテ一その子はヨラムその子はアハジアその子はヨアシニ二その子はアマジャその子はアザリヤモの子はヨタム三その子はアハズその子はヒゼキヤその子はマナセ四その子はアモンその子はヨシア五ヨシアの子等は長子はヨハナンその次はエホヤキムその三はゼデキヤその四はシャルム一六エホヤキムの子等はその子はエコニアその子はゼデキヤ一七俘虜人エコニアの子等はその子シャルテル一八マルキラム、ペダヤ、セナザル、エカミア、ホシヤマ、ネダビヤ一九ペダヤの子等はゼルバベルおよびシメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナニヤその姉妹にシロミテといふ者あり二〇またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの五人あり二一ハナニヤの子等はベラテヤおよびエサヤまたレバヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シカニヤの子等あり二三シカニヤの子はシマヤ、シマヤの子等はハツトシ、イガル、バ

リア、ネアリア、シヤパテの六人二三ネアリアの子等はエリヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人二四エリヨエナイの子等はホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アツクブ、ヨハナン、デラヤ、アナ二の七人

第四章一ユダの子等はペレヅ、ヘヅロン、カルミ、ホル、シヨバルニシヨバルの子レアヤ、ヤハテを生みヤハテ、アホマイおよびラハデを生り是等はザレア人の宗族なり三エタムの父の生る者は左のごとしエズレル、イシマおよびイデバシその姉妹の名はハゼレルポ二といふ四ゲドルの父ペヌエル、ホシヤの父エゼル是等はベテレヘムの父エフラタの長子ホルの子等なり五テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ちヘラとナアラ六ナアラ、アシユルによりてアホザム、ヘペル、テメニおよびアハシタリを産り是等はナアラの産る子なり七ヘラの産る子はゼレテ、エゾアル、エテナンハハツコツはアヌブおよびゾバを産りハルムの子アハルヘルの宗族も彼より出づ九ヤベツはその兄弟の中にて最も尊ばれたる者なりきその母我くるしみてこれを産たればといひてその名をヤベツ(くるしみ)と名けたり一〇ヤベツ、イスラエルの神に禱はり我を祝福に祝福で我境を擴め御手をもて我を助け我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと言ひ神その求むる所を允したまふ一ニシユワの兄弟ケルブはメヒルを生りメヒルはエシトンの父なりニエシトンはベテラバ、パセアおよびイルハナシの父テヒンナを生り是等はレカの人なり

三ケナズの子等はオテニエルおよびセラヤ、オテニエルの子はハタテニ四メオノタイはオフラを生みセラヤはヨアブを生りヨアブはカラシム(工匠)谷の人々の父なり彼處のものは工匠なればかくいふニ五エフソネの子カレブの子等はイル、エラおよびナアム、エラの子等およびケナズニ六ハレレルの子等はジフ、ジバ、テリア、アサレルニ七エズラの子等はエテル、メレデ、エベル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シヤンマイおよびイシバを産りイシバはエシテモアの父なり一八そのユダヤ人なる妻はゲドルの父エレデとシヨコの父ヘルとザノアの父エクテエルを産り是等はメレデが娶りたるパロの女ピテヤの生る子なり一九ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ人エシテモアなりニ〇シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネゾヘテニユダの子シラの子等はレカの父エル、マレンヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの家の人等ニ一ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なりまたヤシユブ、レハムといふ者ありその記録は古しニ三是等の者は陶工にしてネタイムおよびゲデラに住み王の地に居りてその用をなせりニ四シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シヤウルニ五シヤウルの子はシヤルムその子はミブサムその子はミシマニ六ミシマの子はハムエルその子はザツクルその子はシメイニ七シメイには男子十六人女子六人ありし

がその兄弟等には多の子あらざりきまたその宗族の者は凡てユダの子孫ほどには殖増ざりきニ八彼らの住る處はベエルシバ、モラダ、ハザルシユアルニ九ヒルハ、エゼム、トラデニ〇ベトエル、ホルマ、チクラグニ一ベテマルカボテ、ハザルスシム、ベテビル、シヤライム是等の邑はダビデの世にたるまで彼等の有たりきニ二その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なりニ三またこの邑々の周圍に衆多の村ありてバアルにまでおよび彼らの住處は是のごとくにして彼ら各々系譜ありニ四メシヨバブ、ヤムレク、アマジャの子ヨシヤニ五ヨエル、アシエルの曾孫セラヤの孫ヨシビアの子エヒウニ六エリオエナイ、ヤコバ、エシヨハヤ、アサヤ、アデエル、エシミエル、ベナヤニ七およびシピの子ジザ、シピはアロンの子アロンはエダヤの子エダヤはシムリの子シムリはシマヤの子なりニ八此に名を擧げたる者等はその宗族の中の長たる者にしてその宗家は大に蔓延りニ九彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり四〇つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき其は昔より其處に住たりし者はハム人なればなり四一即ち上にその名を記したる者等ユダの王ヒゼキヤの代に往て彼らの幕屋を撃やぶり彼らと其處に居しメウ二人を盡く滅ぼし之に代りて其處に住て今日にいたる是はその群を牧べき牧場其處にありたればなり四二またシメオンの子孫の者五百人許イシの子等ペラテア、ネアリア、レバヤ、

ウジエルを長としてセイル山に攻めき四アマレキ人の逃れて
 遺れる者を撃ほろぼして今日まで其處に住り
 第五章 イスラエルの長子ルベンの子等は左のごとしルベンは
 長子なりしがその父の床を瀆ししによりてその長子の權はイス
 ラエルの子ヨセフの子等に與へらる然れども系譜は長子の權に
 したがひて記すべきに非ずニそはユダその諸兄弟に勝る者とな
 りて君たる者その中より出ればなり但し長子の權はヨセフに
 屬すニ即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、バル、ヘツ
 ロン、カル三ヨエルの子はシマヤその子はゴグその子はシメ
 イ五その子はミカその子はレアヤその子はパアル六その子は
 ベエラこのベエラはアッスリヤの王テルガテピルネセルに虜
 へられてゆけり彼はルベン人の中に牧伯たる者なりき七彼の
 兄弟等はその宗族に依りその歴代の系譜によれば左のごとし
 長アイエルおよびセカリヤハベラ等なりベラはアザズの子シマ
 の孫ヨエルの曾孫なりかれアロエルに住みて地をネボ、バアル
 メオンにまでおよぼししが九ギレアデの地にてその家畜殖増け
 ればまた地を東の方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでお
 よぼせりニまたサウルの時にハガリ人と戰爭してこれを打破
 りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たりニガドの子孫
 はこれと相對ひてバシヤンの地にすみて地をサルカにまで及ぼ
 せりニ長はヨエル次はシヤパム、ヤアナイ、シヤパテ共にバシ
 ヤンに居りニ彼らの兄弟等はその宗家によればミカエル、メ

シユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル都合七人ニ四是等
 はホリの子アビハイルの子等なりホリはヤロアの子ヤロアは
 ギレアデの子ギレアデはミカエルの子ミカエはエシサイの子エ
 シサイはヤドの子ヤドはブズの子ニ五アヒはアブデルの子アブ
 デルはグニの子グニは其宗家の長たりニ六彼らはギレアデとバ
 シヤンと其郷里とシヤロンの諸郊地に住て地を其四方の境に及
 ぼせりニ七是等はみなユダの王ヨタムの子とイスラエルの王ヤ
 ラベアムの世に系譜に載たるなりニハルベンの子孫とガド人と
 マナセの半支派には出て戦ふべき者四萬四千七百六十人あり
 皆勇士にして能く楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戦ふ者
 なりニ九彼等ハガリ人およびエトル、ネフシ、ノダブ等と戰爭し
 けるがニ助力をかうむりて攻撃たればハガリ人および之と偕
 なりし者等みな彼らの手におちいれり是は彼ら陣中にて神を呼
 びこれを頼みしによりて神これを聽いたまひしが故なりニ二
 かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝五萬羊二十五萬驢馬
 二千あり人十萬ありきニまたころされて倒れたる者衆しその
 戰爭神に由るがゆえなり而して彼らはこれが地に代りて住その
 虜移さるる時におよべりニ三マナセの半支派の人々はこの地
 に住み殖蔓りてつひにバシヤンよりバアルヘルモン、セニルお
 よびヘルモン山まで地をおよぼせりニ四その宗家の長は左のご
 とし即ちエペル、イシ、エリエル、アズリエル、エレミヤ、ホダ
 ヤ、ヤデエルはみなその宗家の長にして名ある大勇士なりきニ五

彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し曾て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひてこれと姦淫したれば二六イ
スラエルの神アッスリヤの王ブルの心を振興しまたアッスリヤ
の王テグラテビレセルの心を振興したまへり彼つひにルベン人
とガド人とマナセの半支派とを虜へゆきこれをハウラとハボ
ルとハラとゴザンの河の邊とに移せり彼等は今日まで其處にあ
り

第六章レビの子等はゲルシヨン、コハテ、メラリニコハテの
子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル、アムラムの
子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等はナダブ、アビ
ウ、エレアザル、イタマル、エレアザル、ピネハスを生みピネハ
ス、アビシユアを生み五アビシユア、ブツキを生みブツキ、ウジ
を生み六ウジ、ゼラヒヤを生みゼラヒヤ、メラヨテを生みメラ
ヨテ、アマリヤを生みアマリヤ、アヒトブを生みアヒトブ、ザ
ドクを生みザドク、アヒマアズを生み九アヒマアズ、アザリヤを
生みアザリヤ、ヨハナンを生み一〇ヨハナン、アザリヤを生り此
アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮にて祭司の職を
なせし者なりニアザリヤ、アマリヤを生みアマリヤ、アヒトブ
を生みニアヒトブ、ザドクを生みザドク、シヤルムを生み三シ
ヤルム、ヒルキヤを生みヒルキヤ、アザリヤを生み四アザリ
ヤ、セラヤを生みセラヤ、ヨザダクを生み五ヨザダクはエホ
バ、ネブカデネザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を虜

へうつしたまひし時に虜へられて往り一六レビの子等はゲルシ
ヨン、コハテおよびメラリニ七ゲルシヨンの子等の名は左のこと
シリブニおよびシメイ一八コハテの子等はアムラム、イツハル、
ヘブロン、ウジエル一九メラリの子等はマヘリおよびムシ、レビ
人の宗族はその宗家によれば是のごとし二〇ゲシヨンの子はリ
ブニその子はヤハテその子はジンマニ二その子はヨアその子
はイドその子はゼラその子はヤテライ三三コハテの子はアミナ
ダブその子はコラその子はアシル三三その子はエルカナその
子はエビアサフその子はアシル二四その子はタハテその子はウ
リエルその子はウジヤその子はシヤウル二五エルカナの子等は
アマサイおよびアヒモテ二六エルカナについてはエルカナの子
はゾバイその子はナハテ二七その子はエリアブその子はエロハ
ムその子はエルカナ二八サムエルの子等は長子はヨエル次はア
ビヤ二九メラリの子はマヘリその子はリブニその子はシメイ
その子はウザ三〇その子はシメアその子はハギヤその子はアサ
ヤなり三 契約の櫃を安置せし後ダビデ左の人々を立てエホバ
の家にて謳歌事を司どらせたり三 彼等は集會の幕屋の住所
の前にて謳歌事をおこなひ來りしがソロモン、エルサレムにエ
ホバの室を建るにおよびその次序に循ひてその職をつとめたり
三三立て奉事をなせるものおよびその子等は左のごとしコハテ
の子等の中へマンは謳歌師長たりへマンはヨルの子ヨエルは
サムエルの子三四サムエルはエルカナの子エルカナはエロハム

の子エロハムはエリエルの子エリエルはトアの子三三トアはツフの子ツフはエルカナの子エルカナはマハテの子マハテはアマサイの子三六アマサイはエルカナの子エルカナはヨエルの子ヨエルはアザリヤの子アザリヤはゼパニヤの子三七ゼパニヤはタハテの子タハテはアシルの子アシルはエピアサフの子エピアサフはコラの子三八コラはイツハルの子イツハルはコハテの子コハテはレビの子レビはイスラエルの子なり三九ヘマンの兄弟アサフ、ヘマンの右に立りアサフはベレキヤの子ベレキヤはシメアの子四〇シメアはミカエルの子ミカエルはバアセヤの子バアセヤはマルキヤの子四一マルキヤはエテニの子エテニはゼラの子ゼラはアダヤの子四二アダヤはエタンの子エタンはジンマの子ジンマはシメイの子四三シメイはヤハテの子ヤハテはゲルシヨンの子ゲルシヨンはレビの子なり四四また彼らの兄弟なるメラリ人等その左に立り其中のエタンはキシの子なりキシはアブデの子アブデはマルクの子四五マルクはハシヤビヤの子ハシヤビヤはアマジャの子アマジャはヒルキヤの子四六ヒルキヤはアムジの子アムジはパニの子パニはセメルの子四七セメルはマヘリの子マヘリはムシの子ムシはメラリの子メラリはレビの子なり四八彼らの兄弟なるレビ人等は神の室の幕屋の諸の職に任ぜられたり四九アロンおよびその子等は燔祭の壇と香壇の上に物を献ぐることを司どりまた至聖所の諸の工をなし且イスラエルのために贖をなすことを司どり凡て神の

僕モーセの命じたることし五〇アロンの子孫は左のごとしアロンの子はエレアザルその子はピネハスその子はアビシユア五二その子はブツキその子はウジその子はゼラヒヤ五三その子はメラヨテその子はアマリヤその子はアヒトブ五三その子はザドクその子はアヒマアズ五四アロンの子孫の住處は四方の境の内にありその間里に循ひていはば左の如し先コハテ人の宗族が籤によりて得たるところは是なり五五すなはちユダの地の中よりはへブロンとその周圍の郊地を得たり五六但しその邑の田野と村々はエフソネの子カレブに歸せり五七すなはちアロンの子孫の得たる邑は逃避邑なるへブロン、リブナとその郊地ヤツテルおよびエシテモアとそれらの郊地五八ホロンとその郊地デビルとその郊地五九アシヤンとその郊地ベテシメシとその郊地なり六〇またベニヤミンの支派の中よりはゲバとその郊地アレメテとその郊地アナトテとその郊地を得たり彼らの邑はその宗族の中に都合十三ありき六一またコハテの子孫の支派の中此他なる者はかの半支派の中即ちマナセの半支派の中より籤によりて十の邑を得たり六二またゲルシヨンの子孫の宗族はイツサカルの支派アセルの支派ナフタリの支派及びバシヤンなるマナセの支派の中より十三の邑を得たり六三またメラリの子孫の宗族はルベンの支派ガドの支派およびゼブルンの支派の中より籤によりて十二の邑を得たり六四イスラエルの子孫は邑とその郊地とをレビ人に與へたり六五即ちユダの子孫の支派とシメオ

ンの子孫の支派とベニヤミンの子孫の支派の中よりして此に名
 を擧たる是等の邑を籤によりて之に與へたり六六コハテの子孫
 の宗族はまたエフライムの支派の中よりも邑を得てその領地と
 なせり六七 即ちその得たる逃遁邑はエフライム山のシケムとそ
 の郊地およびゲゼルとその郊地六八 ヨクメアムとその郊地ベテ
 ホロンとその郊地六九 アヤロンとその郊地ガテリンモンとその
 郊地なり七〇 またマナセの半支派の中よりはアネルとその郊地
 ビレアムとその郊地是みなコハテの子孫の遺れる宗族に歸せり
 七一ゲルシヨンの子孫に歸せし者はマナセの半支派の宗族の中
 よりはバシヤンのコランとその郊地アシタロテとその郊地七一
 イツサカルの子孫の中よりはゲデシとその郊地ダベラテとそ
 の郊地七三 ラモテとその郊地 アネムとその郊地七四 アセル支派の
 中よりはミシアルとその郊地 アブドンとその郊地七五 ホコクと
 その郊地レホブとその郊地七六 ナフタリの支派の中よりはガリ
 ラヤのゲデシとその郊地 ハンモンとその郊地 キリアタイムと
 その郊地七七 比外の者すなはちメラリの子孫に歸せし者はゼブ
 ルンの支派の中よりはリンモンとその郊地 タボルとその郊地七
 ハ エリコに對するヨルダンの彼旁すなはちヨルダンの東におい
 てルベンの支派の中よりは曠野のベゼルとその郊地 ヤザとそ
 の郊地七九 ケデモテとその郊地 メバアテとその郊地八〇 ガドの
 支派の中よりはギレアデのラモテとその郊地 マハナイムとそ
 の郊地八一 ヘシボンとその郊地 ヤゼルとその郊地

第七章 イツサカルの子等はトラ、プワ、ヤシユブ、シムロムの
 四人ニトラの子等はウジ、レバヤ、エリエル、ヤマイ、エブサム、
 サムエル是みなトラの子にして宗家の長なり其子孫の大勇士た
 る者はダビデの世にはその數二萬二千六百なりき三ウジの
 子はイスラヒヤ、イスラヒヤの子等はミカエル、オバデヤ、ヨエ
 ル、イツシヤの五人是みな長たる者なりき四 その宗家によれば
 その子孫の中に軍旅の士卒三萬六千人ありき是は彼等妻子を衆
 く有たればなり五 イツサカルの諸の宗族の中なるその兄弟等
 すなはち名簿に記載たる大勇士は都合八萬七千人六 ベニヤミン
 の子等はベラ、ベケル、エデアエルの三人セベラの子等はエツボ
 ン、ウジ、ウジエル、エレモテ、イリの五人皆その宗家の長な
 りその名簿に記載たる大勇士は二萬二千三十四人ハベケルの
 子等はセミラ、ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エ
 レモテ、アビヤ、アナトテ、アラメテ是みなベケルの子等にして
 宗家の長なり九 その子孫の中名簿に記載たる大勇士は二萬二
 百人なりき一〇 またエデアエルの子はビルハン、ビルハンの
 子等はエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシ
 シ、アビシヤハルニ是みなエデアエルの子にして宗家の長たり
 きその子孫の中に能く陣にのぞみて戰ふ大勇士一萬七千二百
 人ありきニまたイリの子等はシユバムおよびホバム、またアヘ
 ラの子はホシムニナフタリの子等はヤジエル、グニ、エゼル、シ
 ヤルム是みなビルハの産る子なり一四 マナセの子等は其の妻の

産る者はアシリエルその妾なるスリアの女の産る者はギレアデの父マキルニ五マキルはホバムとシユバムの妹名はマアカとい者を妻に娶れりその次の者はゼロバハデといぜロバハデには女子ありしのみニ六マキルの妻マアカ男子を産てその名をペレシとよべりその弟の名はシヤレシ、シヤレシの子等はウラムおよびラケムニセウラムの子はベタン是等はマナセの子マキルの子なるギレアデの子等なりニ八その妹ハンモレケテはイシホデ、アビエゼル、マヘラを産リニ九セミダの子等はアヒアン、シケム、リキ、アニヤムニ〇エフライムの子はシユテラその子はベレデその子はタハテその子はエラダその子はタハテニその子はザバデその子はシユテラエゼルとエレアデはガテの土人等これを殺せり其は彼ら下りゆきてこれが家畜を奪はんとしたればなりニ三その父エフライムこれがために哀むこと日久しかりければその兄弟等きたりてこれを慰さめたりニ三かくて後エフライムその妻の所にいりけるに胎みて男子を生たればその名をベリア(災難)ことなづけたりその家に災難ありたればなりニ四エフライムの女子セラは上下のベテホロンおよびウゼンセラを建たりニ五ベリアの子はレバおよびレセフその子はテラその子はタハンニ六その子はラダンその子はアミホデその子はエリシヤマニ七その子はヌンその子はヨシユアニ八エフライムの子孫の産業と住處はベテルとその郷里また東の方にてはナアラン西の方にてはゲゼルとその郷里またシケムとその郷里および

アワとその郷里ニ九またマナセの子孫の國境に沿てはベテシヤンとその郷里タアナクとその郷里メギドンとその郷里ドルとその郷里なりイスラエルの子ヨセフの子孫は是等の處に住リニ〇アセルの子等はイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姉妹セラニベリアの子等はへベルおよびマルキエル、マルキエルはビルザヒテの父なりニ一へベルはヤフレテ、シヨメル、ホタムおよびその姉妹シユワを生リニ二ヤフレテの子等はバサク、ピムハル、アシワテ、ヤフレテの子等は是の事ニ三シヨメルの子等はアヒ、ロガ、ホバおよびアラムニ四シヨメルの兄弟ヘルムの子等はゾバ、イムナ、シレン、アマルニ五ゾバの子等はスア、ハルネベル、シユアル、ベリ、イムラニ六ベゼル、ホド、シヤンマ、シルシヤ、イテラン、ベエラニ七エテルの子等はエフンネ、ピスパおよびアラニ九ウラの子等はアラ、ハニエルおよびリヂア四〇是みなアセルの子孫にして宗家の長たり挺出たる大勇士たり將官の長たりきその名簿に記載たる能く陣にのぞみて戦ふ者ニ萬六千人あり

第八章ニベニヤミンの生る者は長子はベラその次はアシベルその三はアハラニその四はアハその五はラパニベラの子等はアダル、ゲラ、アビウテ四アビシユア、ナアマン、アホア五ゲラ、シフパム、ヒラム六エホデの子等は左のごとし是等はゲバの民の宗家の長なり是はマナハテに移されたり七すなはちナアマンおよびアヒヤとともにゲラこれを移せるなりエホデの子等はす

なはちウザとアヒウデはなりハシヤハライムはその妻ホシムと
 バアラを去し後モアブの國においてまた子等を擧げたり九彼が
 その妻ホデシによりて擧げたる子等はヨバブ、ヂビア、メシヤ、
 マルカムニエウツ、シヤキヤおよびミルマ是その子等にして
 宗家の長なりニ彼またホシムによりてアビトブとエルパアル
 を擧げたりニエルパアルの子等はエベル、ミシヤムおよびシヤ
 メル彼はオノとロドとその郷里を建たる者なりニまたベリア、
 シマあり是等はアヤロンの民の宗家の長たる者にしてガテの民
 を逐はらへりニまたアヒオ、シヤシヤク、エレモテニ五ゼバデ
 ヤ、アラデ、アデルニ六ミカエル、イシパ、ヨハ是等はベリアの
 子等なりニ七ゼバデヤ、メシユラム、ヘゼキ、ヘベルニハイシメラ
 イ、エズリア、ヨバブ是等はエルパアルの子等なりニ九ヤキン、ジ
 クリ、ザベデニ〇エリエナイ、チルタイ、エリエルニアダヤ、ベ
 ラヤ、シムラテ是等はシマの子等なりニイシパン、ヘベル、エ
 リエルニ三アブドン、ジクリ、ハナンニ四ハナニヤ、エラム、アン
 トテヤニ五イペデヤ、ペヌエル是等はシヤシヤタの子等なりニ六
 シヤムセラヤ、シハリア、アタリヤニ七ヤレシヤ、エリヤ、ジク
 リ是等はエロハムの子等なりニ八是等は歴代の宗家の長にして
 首たるものなり是らはエルサレムに住たりニ九ギベオンの祖は
 ギベオンに住りその妻の名はマアカといふニ〇その長子はアブ
 ドン、次はツル、キシ、バアル、ナダブニ三ゲドル、アヒオ、ザ
 ケルニ三ミクロテはシメアを生り是等も又その兄弟等とともに

エルサレムに住てこれに對ひ居りニネル、キシを生みキシ、サ
 ウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダブ、エシ
 バアルを生りニ四ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカ
 を生りニ五ミカの子等はピトン、メレク、ダレア、アハズニ六アハ
 ズはエホアダを生みエホアダはアレメテ、アズマウテおよびジ
 ムリを生みジムリはモザを生みニ七モザはピネアを生りその子
 はラパその子はニレアサその子はアゼルニ八アゼルには六人の
 子あり其名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤ
 リヤ、オバデヤ、ハナン是みなアゼルの子なりニ九その兄弟エセ
 クの子等の長子はウラムその次はエウンその三はエリペレテ四〇
 ウラムの子等は大勇士にして善く弓を射る者なり彼は孫子多
 くして百五十人もあり是みなベニヤミンの子孫なり
 第九章 イスラエルの人は皆名簿に記載されたり視よ是は皆イ
 スラエルの列王紀に録さるユダはその罪のためにバビロンに虜
 へられてゆけりニその産業の邑々に最初に住ひし者にイスラエ
 ル人祭司等レビ人およびネテ二人等なりニまたエルサレムには
 ユダの子孫ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの子孫
 等住り四即ちユダの子ペレツの子孫の中にてはアミホデの子ウ
 タイ、アミホデはオムリの子オムリはイムリの子イムリはパニ
 の子なり五シロ族の中にてはシロの長子アサヤおよびその他の
 子等六ゼラの子孫の中にてはユエルおよびその兄弟六百九十
 人七ベニヤミンの子孫の中にてはハセヌアの子ハダヤの子なる

メシユラムの子サルハエロハムの子イブニヤ、ミクリの子なるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子なるシパテヤの子メシユラム九 並に彼らの兄弟等その世系によれば合せて九百五十六人はみなその宗家の長たる人々なり一〇また祭司の中にてはエダヤ、ヨアリブ、ヤキン一およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラムの子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブの子なりアザリヤは神の室の宰たり二またエロハムの子アダヤ、エロハムはバシユルの子バシユルはマルキヤの子なりまたアデエルの子マアセヤ、アデエルはヤゼラの子ヤゼラはメシユラムの子メシユラムはメシレモテの子メシレモテはインメルの子なり三また彼らの兄弟等は等は宗家の長たる者にして合せて一千七百六十人あり皆神の室の奉事をなすの力あるものなり四レビ人の中にてはハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子是はメラリの子孫なり五またバクバツカル、ヘレシ、ガラルおよびアサフの子ジクリの子なるミカの子マツタニヤ一六ならびにエドトンの子ガラルの子なるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子なるアサの子ベレキヤ、エルカナはネトバ人の郷里に住たる者なり七門を守る者はシャルム、アツクブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟等にしてシヤレムその長たり一八彼は今日まで東の方なる王の門を守りて是等はレビの子孫の營の門を守る者なり一九コラの子エピアサフの

子なるコレの子シャルムおよびその父の家の兄弟等などのコラ人は幕屋の門々を守る職務を主どりその先祖等はエホバの營の傍にありてその入口を守れり二〇エレアザルの子ピネハス昔彼らの主宰たりきエホバ彼とともに在せり二一メシレミヤの子ゼカリヤは集會の幕屋の門を守る者なりき三是みな選ばれて門を守る者にて合せて二百十二人ありき皆その村々の名簿に記載たる者なりしがダビデと先見者サムエルこれをその職に任じたり三彼等とその子孫は順番にエホバの室すなはち幕屋の門を司どれり四門を守る者は西東北南の四方に居り五またその村々に居る兄弟等は七日ごとに迭り來りて彼らを助けたり二六門を守る者の長たるこの四人のレビ人はその職にをりて神の室の諸の室と府庫とを司どれり七彼らは番守をなす身なるに因て神の室の四周に舍れり而して朝ごとにこれを開くことをせり二八その中に奉事の器皿を司どる者あり是はその數を按べて携へいりそり數を按べて携へいだすべき者なり二九またその他の器皿すなはち聖所の一切の器皿および麥粉 酒 油 乳香 香料を司どる者あり三〇また祭司の徒の中に香料をもて香膏を製る者あり三一コラ人シャルムの長子なるマツタテヤといふレビ人は銅にて製るところの物を司どれり三二またコハテ人の子孫たるその兄弟等の中に供前のパンを司どりて安息日ごとにこれを調ふる者等あり三三レビ人の宗家の長たる是等の者は謳歌師にして殿の諸の室に居て他の職を爲ざりき其は日夜

その職務にかかりをればなり三四是等はレビ人の歴代の宗家の長にして首長たる者なり是等はエルサレムに住り三五ギベオンの祖エヒエルはギベオンに住りその妻の名はマアカといふ三六その長子はアブドン次はツル、キシ、バアル、ネル、ナダブ三七ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテ三八ミクロテ、シメアムを生り彼等もその兄弟等とともにエルサレムに住てその兄弟等と相對ひ居り三九ネルはキシを生みキシはサウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アヒナダブおよびエシバアタを生り四〇ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り四一ミカの子等はピトン、メレク、タレアおよびアハズ四二アハズはヤラを生みヤラはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生みジムリはモザを生み四三モザはピネアを生りピネアの子はレバヤその子はエレアサその子はアゼル四四アゼルは六人の子ありきその名は左のごとシアズリカム、ボケル、イシマエル、シャリヤ、オバデヤ、ハナン是等はアゼルの子なり

第一〇章一茲にペリシテ人イスラエルと戦ひけるがイスラエルの人々はペリシテ人の前より逃げギルボア山に殺されて倒れたリニペリシテ人はサウルとその子等を追撃しかしてペリシテ人サウルの子ヨナタン、アヒナダブおよびマルキシユアを殺せり三三斯その戦鬪烈しうしてサウルにおし迫り射手の者等つひにサウルに追つきければサウルは射手の者等のために惱めり四サウルはにおひてその武器を執る者に言けるは汝の劍をぬき其をもて

我を刺せ恐らくはこの割禮なき者等きたりて我を辱しめんと然るにその武器を執る者痛くおそれて肯はざりければサウルすなはちその劍をとりてその上に伏たり五武器を執る者サウルの死たるを見て己もまた劍の上に伏て死り六サウルとその三人の子等およびその家族みな共に死り七谷に居るイスラエルの人人々みな彼らの逃るを見またサウルとその子等の死るを見てその邑々を棄て逃げればペリシテ人來りてその中に住り八明る日ペリシテ人殺されたる者を剥んとて來りサウルとその子等のギルボア山にたふれをるを見九すなはちサウルを剥てその首とその鎧甲を取りペリシテの國の四方に人を遣はしてこの事をその偶像と民に告しめ一〇しかしてかれが鎧甲をその神の室に蔵め彼が首をダゴンの宮に釘けたり一茲にペリシテ人がサウルになしたる事ごとくヤベシギレアデ中に聞えければ二勇士等みな起りサウルの體とその子等の體とを奪ひ取てこれをヤベシに持きたりヤベシの橡樹の下にその骨を葬りて七日のあひだ斷食せり三斯サウルはエホバにむかひて犯せし罪のために死たり即ち彼はエホバの言を守らずまた憑鬼者に問ことを爲して

一四エホバに問ことをせざりしなり是をもてエホバかれを殺しその國を移してエツサイの子ダビデに與へたまへり
第一章一茲にイスラエルの人みなヘブロンに集まりてダビデの許に詣り言けるは我らは汝の骨肉なり二前にサウルが王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりき又なんぢの

神エホバ汝にむかひて汝はわが民イスラエルを牧養ぶ者となり我民イスラエルの君とならんと言たまへりと三斯イスラエルの長老みなヘブロンにきたりて王の許にいたりければダビデ、ヘブロンにてエホバの前に彼らと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏をそそぎてイスラエルの王となしサムエルによりて傳はりしエホバの言のごとくせり四かくてダビデはイスラエルの人々を率ゐてエルサレムに往りエルサレムは即ちエブスなりその國の土人エブス人其處に居り五是においてエブスの民ダビデに言けるは汝は此に入べからずと然るにダビデはシオンを城を取り是すなはちダビデの邑なり六この時ダビデいひけるは誰にもあれ第一にエブス人を撃やぶる者を首となし將となさんと斯てゼルヤの子ヨアブ先登して首となれり七ダビデその城に住たればこれをダビデの邑と稱へたり八ダビデまたその邑の四方すなはちミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり邑の中のその餘の處はヨアブこれを修理へり九斯てダビデはますます大になりゆけり萬軍のエホバこれとともに在したればなり一〇ダビデが有る勇士の重なる者は左のごとし是等はイスラエルの一切の人とともにダビデに力をそへて國を得させ終にこれを王となしてエホバがイスラエルにつきて言ひし言を果せり一ダビデの有る勇士の數は是のごとし第一は三十人の長たるハクモ二人の子ヤシヨベアム彼は槍を揮ひて一時に三百人を衝殺せし事あり二彼の次はアホア人ドドの子エレアザルにして三勇士の中

なり三彼ダビデとともにパスダミムに在けるにペリシテ人其處に集りきて戰へり其處に大麥の滿たる地一箇所あり時に民ペリシテ人の前より逃たりしが四彼その地所の中に踐とどまり之を護りてペリシテ人を殺せり而してエホバ大なる拯救をほどこして之を救ひたまへり五三十人の長なる三人の者アドラムの洞穴に下り磐の處に往てダビデに詣りし事あり時にペリシテ人の軍兵はレパイムの谷に陣どれり六その時ダビデは岩に居りペリシテ人の鎮臺兵はベテレヘムにありけるが七ダビデ慕ひ望みて言けるは誰かベテレヘムの門にある井の水を持來りて我に飲せよかし一八この三人すなはちペリシテ人の軍兵の中を衝とほりてベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へきたれり然とダビデこれを飲ことをせず之をエホバの前に灌ぎて一九言けるは我神よ我決てこれを爲じ我いかで命をかけし此三人の血を飲べけんやと彼らその命をかけて之を携へきたりたればなり故にダビデこれを飲ことを爲さざりき此三勇士は是らの事を爲り二〇ヨアブの兄弟アビシヤイは三人の長たり彼は槍を揮ひて三百人を衝ころし三人の中に名を得たり二彼は第二の三人の中にて尤も貴くしてその首にせらる然と第一の三人には及ばざりき三エホバダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり衆多の功績ありし者なり彼はモアブのアリエルの二人の子を撃殺せりまた雪の日に下りゆきて穴の中にて獅子一匹を撃殺せし事ありき三彼はまた長身五キュビト程なるエジプト

人を殺せりそのエジプト人は機織の膝のごとき槍を手に執をりしに彼は杖をとりて之が許に下りゆきエジプト人の手よりその槍を扱とりてその槍をもて之を殺せり四エホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三勇士の中に名を得たり五彼は三十人の中にて尊かりしかども第一の三人には及ばざりきダビデかれを親兵の長となせり六軍兵の中の勇士はヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン七ハロデ人シヤンマ、ペロ二人ヘレツニハテコア人イツケシの子イラ、アナトテ人アビエゼル八ホシヤ人シベカイ、アホア人イライ九ネットパ人マハラ、ネットパ人バナアの子ヘレデ三ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタイ、ピラト人ベナヤ三ガアシの谷のホライ、アルバテ人アビエル三バハルム人アズマウテ、シヤルボ二人エリヤバ四ギゾ二人ハセム、ハリリ人シヤゲの子ヨナタン五ハリリ人サカルの子アヒアム、ウルの子エリパル六メケラ人ヘベル、ペロ二人アヒヤ七カメル人ヘツライ、エズバイの子ナアライ三ハナタンの兄弟ヨエル、ハグリの子ミツハル三九アンモ二人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者なるベエロテ人ナハラ四〇エテリ人イラ、エテリ人ガレブ四一ヘテ人ウリヤ、アヘライの子ザバデ四二ルベン人シザの子アデナ是はルベン人の軍長の一人にして従者三十人を率ゐたり四三マアカの子ハナン、ミテ二人ヨシヤバテ四四アシテラ人ウシヤ、アロエル人ホタンの子等シヤマとエイエル四五デジンシムリの子エデアエルお

よびその兄弟ヨハ、四六マハウ人エリエル、エルナムの子等エリバイおよびヨシヤワヤ、モアブ人イテマ四七エリエル、オベデ、ソメバ人ヤシエル
第二章一ダビデがキシの子サウルの故によりて尚チクラグに閉こもり居ける時に彼處にゆきてダビデに就し者は左のごとしその人々は勇士の中にしてダビデを助けて戦ひたる者二能く弓を彎き右左の手を用ゐて善く石を投げ弓矢を發つ者なりしが俱にベニヤミン人にしてサウルの宗族たり三首はアヒエゼル次はヨアシ是らはギベア人シマアの子等なり又エジエルおよびペレテ是らはアズマウラの子等なり又ベラカおよびアナトテ人エヒウ四またギベオン人イシマヤ彼は三十人の中の勇士にして三十人の首なり又エレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ人ヨザバテ五エルザイ、エリモテ、ベアリヤ、シマリヤ、ハリフ人シバテヤ六エルカナ、エシヤ、アザリエル、ヨエゼル、ヤシヨベアム是等はコラ人なり七またゲドルのエロハムの子等たるヨエラおよびゼバデヤハガド人の中より曠野の砦に脱きたりてダビデに歸せし者あり是みな大勇士にして善戦かふ軍人能く楯と戈とをつかふ者にてその面は獅子の面のごとくその捷きことは山にをる鹿のごとくなり九その首はエゼルその二はオバデヤその三はエリアブ一〇その四はミシマンナその五はエレミヤ一その六はアツタイその六はエリエル三その八はヨハナンその九はエルザバテ三その十はエレミヤその十一はマクバナイ一四是等

はガドの人々にして軍旅の長たりそ最も小き者は百人に當りその最も大なる者は千人に當れり二五 正月ヨルダンその全岸に溢れたる時に是らの者濟りゆきて谷々に居る者をごとごとく東西に打奔らせたり一六 茲にベニヤミンとユダの子孫の中の人々皆に來りてダビデに就きけるに一七ダビデこれを出むかへ應へて之に言けるは汝ら厚 志をもて我を助けんとて來れるならば我心なんぢらと相結ばん然ど汝らもし我手に惡きこと有ざるに我を欺きて敵に付さんとせば我らの先祖の神ねがはくは之を監みて責たまへと一八時に聖靈三十人の長アマサイに臨みて彼すなはち言けるはダビデよ我らは汝に屬すエツサイの子よ我らは汝を助けん願くは平安あれ汝にも平安あれ汝を助くる者にも平安あれ汝の神汝を助けたまふなりと是においてダビデ彼らを接いれて軍旅の長となせり一九前にダビデ、ペリシテ人とともにサウルと戦はんとて攻きたれる時マナセ人數人ダビデに屬り但しダビデ等は遂にペリシテ人を助けざりき其はペリシテ人の君等あひ謀り彼は我らの首級をもてその主君サウルに歸らんとて彼を去しめたればなり二〇 斯てダビデ、チクラグに往る時マナセ人アデナ、ヨザバデ、マデアエル、ミカエル、ヨザバデ、エリウ、チルタイこれに歸せり皆マナセ人の千人の長たる者なりき二 彼等ダビデを助けて敵軍に當れり彼らは皆大勇士にして軍旅の長となれり三 當時ダビデに歸して之を助くる者日々に加はりて終に大軍となり神の軍旅のごとくなれり三

戰爭のために身をよるひへブロンに來りてダビデに就きエホバの言のごとくサウルの國をダビデに歸せしめんとしたる武士の數は左のごとし二四 ユダの子孫にして楯と戈とを執り戰爭のために身をよるへる者は六千八百人二五 シメオンの子孫にして善戦かふ大勇士は七千一百人二六 レビの子孫たる者は四千六百人二七 エホヤダ、アロン人を率ゆたり之に屬する者は三千七百二人二八 またザドクといふ年若き勇士ありきその宗家の長たる者二十二二人ありたり二九 サウルの宗族ベニヤミンの子孫たる者は三千人はベニヤミン人は多くサウルの家に尚も忠義を盡しめたればなり三〇 エフライムの子孫たる者は二萬八百人皆大勇士にしてその宗家の名ある人々たり三 マナセの半支派の者は一萬八千人皆名を録されたる者なるが來りてダビデを王にたてんとす三一 イツサカルの子孫たる者の中より善く時勢に通じイスラエルの爲べきことを知る者きたれりその首二百人ありその兄弟等は皆これが指揮にしたがへり三二 セブルンの者は五萬人皆よく身をよるひ各種の武器をもて善く戰鬥をなし一心に行伍を守る者なりき三四 ナフタリの者は將たる者千人楯と戈とを執てこれに従ふ者三萬七千人三五 ダン人は二萬八千六百にして皆そなへを守る者なりき三六 アセルの者は四萬人にして皆よく陣にのぞみ且行伍を守る者なりき三七 またヨルダンの彼旁なるルベン人とガド人とマナセの半支派の者は十二萬人みな各種の武器を執て戰爭にいづるに勝る者なりき三八 是等の行伍を守

る軍人等眞實の心を懷きてヘブロンに來りダビデをもてイスラエル全國の王となさんとせり其餘のイスラエル人もまた心を一にしてダビデを王となさんとせり三九彼ら彼處に三日をりてダビデとともに食ひかつ飲り其はその兄弟等これがために備をなしたればなり四〇また近處の者よりイツサカル、ゼブルンおよびナフタリの者に至るまでパンと麥粉の食物と乾無花果と乾葡萄と酒と油等を驢馬駱駝牛馬に載きたりかつ牛羊を多く携へいたれり是イスラエルみな喜びたればなり

第三章一茲にダビデ千人の長百人の長などの諸將とあひ議り二而してダビデ、イスラエルの全會衆に言けるは汝らもし之を善とし我らの神エホバこれを允したまはば我ら徧く人を遣してイスラエルの各地に留まれる我らの兄弟ならびにその諸郊地の邑々にをる祭司とレビ人とに至らせ之をして我らの所に集まらしめん三而して我らまた我らの神の契約の櫃を我らの所に移さんサウルの世には我ら之に就て詢ことをせざりしなりと四會衆みな然すべしと言り其は民みな此事を善と觀たればなり五是においてダビデはキリアテヤリムより神の契約の櫃を昇きたらんとてエジプトのジホルよりハマテの入口までのイスラエル人をことごとく召あつめ六而してダビデ、イスラエルの一切の人とともにバアラといふユダのキリアテヤリムに上り往きケルビムの上に坐したまふエホバ神の名をもて稱らるる契約の櫃を其處より昇のぼらんとし七乃ち神の契約の櫃を新しき車

に載てアビナダブの家より牽いだしウザとアヒオその車を御せりハダビデおよびイスラエルの人はみな歌と琴と瑟と鼓と鑄鉞と喇叭などを以て力をきはめ歌をうたひて神の前に踊れり九かくてキドンの木場に至れる時ウザ手を神の契約の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛これを振たればなり一〇ウザその手を伸て契約の櫃につけたるによりてエホバこれに向ひて忿怒を發してこれを撃たまひければ其處にて神の前に死り二エホバ、ウザを撃たまひしに因てダビデ怒れり其處は今日までペレツウザ(ウザ撃)と稱へらる三その日ダビデ神を畏れて言り我なんぞ神の契約の櫃を我所に昇ゆくべけんやと三ダビデその契約の櫃を己のところダビデの城邑につつまず之を轉らしてガテ人オベデエドムの家に昇いらしめたり四神の契約の櫃オベデエドムの家にありて其家族とともにおかかること三月なりきエホバ、オベデエドムの家とその一切の所有を祝福たまへり

第四章一茲にツロの王ヒラム使者をダビデに遣はし之がために家を建させんとて香柏および木匠と石工をおくれり二ダビデはエホバの固く己をたててイスラエルの王となしたまへるを曉れり其はその民イスラエルの故によりてその國振ひ興りたればなり三ダビデ、エルサレムにおいてまた妻妾を納たり而してダビデまた男子女子を得たり四そのエルサレムにて得たる子等の名は左のごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン五イブハル、エリシユア、エルバレテ六ノガ、ネベグ、ヤピア七エリシヤ

マ、ベエリアダ、エリバレテハ茲にダビデの膏そそがれてイスラエル全國の王となれる事ペリシテ人に聞えければペリシテ人みなダビデを獲んとて上れりダビデは聞て之に當らんとて出たりしが九ペリシテ人すでに來りてレバイムの谷を侵したりき二〇時にダビデ神に問て言けるは我ペリシテ人にむかひて攻上るべきや汝彼らを吾手に付し給ふやエホバ、ダビデに言たまひけるは攻上れ我かれらを汝の手に付さんと二是において皆バアルベラジムに上りゆきけるがダビデつひに彼處にて彼らを打敗り而してダビデ言り神水の破壊り出ることくに我手をもてわが敵を敗りたまへりと是をもてその處の名をバアルベラジム（破壊の處）と呼ぶなり三彼ら其處にその神々を遣ゆきたればダビデ命じて火をもてこれを焚せたり三斯て後ペリシテ人復谷を侵しければ二四ダビデまた神に問に神これに言たまひけるは彼らを追て上るべからず彼らを離れて回りベカの樹の方よりこれを襲へ二五汝ベカの樹の上に進むの音あるを聞ば即ち進んで戦ふべし神汝のまへに進みいでペリシテ人の軍勢を撃たまふべければなりと二六ダビデすなはち神の己に命じたまひし如くしてペリシテ人の軍勢を撃やぶりつつギベオンよりガゼルにまでいたれり二七是においてダビデの名諸の國々に聞えわたりエホバ諸の國人に彼を懼れしめたまへり

第一章一ダビデはダビデの邑の中に自己のために家を建て又神の契約の櫃のために處を備へてこれがために幕屋を張り二而

してダビデ言けるは神の契約の櫃を昇べき者は只レビ人のみ其はエホバ神の契約の櫃を昇しめまた己に永く事しめんとてレビ人を選びたまひたればなりと三ダビデすなはちエホバの契約の櫃をその之がために備へたる處に昇のぼらんとてイスラエルをことごとくエルサレムに召集めたり四ダビデまたアロンの子孫とレビ人を集めたり五即ちコハテの子孫の中よりはウリエルを長としてその兄弟百二十人六メラリの子孫の中よりはアサヤを長としてその兄弟二百二十人七ゲルシヨンの子孫の中よりはヨエルを長としてその兄弟百三十人八エリザパンの子孫の中よりはシマヤを長としてその兄弟二百人九ヘブロンの子孫の中よりはエリエルを長としてその兄弟八十人一〇ウジエルの子孫の中よりはアミナダブを長としてその兄弟百十二人一一ダビデ祭司ザドクとアビヤタルおよびレビ人ウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し三これに言けるは汝らはレビ人の宗家の長たり汝らと汝らの兄弟共に身を潔めイスラエルの神エホバの契約の櫃を我が其の爲に備へたる處に昇のぼれよ三前には之をかきしもの汝らにあらざりしに縁て我らの神エホバわれらを撃たまへり是は我らそのさだめにしたがひて之に求めざりしが故なりと二四是において祭司等とレビ人等イスラエルの神エホバの契約の櫃を昇のぼらんと身を潔め二五レビの子孫たる人々すなはちモーセがエホバの言にしたがひて命じたることく神の契約の櫃をその負ける枉によりて肩

に負りニ六ダビデまたレビ人の長等に告げその兄弟等を選びて
 謳歌者となし瑟と琴と鏡鉞などの樂器をもちて打はやして
 歡喜の聲を擧しめよと言たればレビ人すなはちヨエルの子
 ヘマンとその兄弟ベレキヤの子アサフおよびメラリの子孫た
 る彼らの兄弟クシヤヤの子エタンを選べりニ八また之に次るそ
 の兄弟等これと偕にあり即ちゼカリヤ、ベン、ヤジエル、セミ
 ラモテ、エイエル、ウンニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マツ
 タテヤ、エリペレホ、ミクネヤおよび門を守る者なるオベデエド
 ムとエイエルニ九謳歌者ヘマン、アサフおよびエタンは銅の
 鏡鉞をもて打はやす者となりニ〇ゼカリヤ、アジエル、セミラモ
 テ、エイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは瑟をもて
 細き音を出しニマツタテヤ、エリペレテ、ミクネヤ、オベデエ
 ドム、エイエル、アザジヤは琴をもて太き音を出して拍子をとれ
 りニケナニヤはレビ人の長にして負其事に通じをるによりて
 負其事を指揮せりニまたベレキヤとエルカナは契約の櫃の門
 を守りニ祭司シバニヤ、ヨシヤパテ、ネタネル、アマサイ、ゼ
 カリヤ、ベナヤ、エリエゼル等は神の契約の櫃の前に進みて喇叭
 を吹きオベデエドムとエヒアは契約の櫃の門を守れりニ五
 ビデとイスラエルの長老および千人の長等は往てオベデエド
 ムの家よりエホバの契約の櫃を歡び勇みて昇のぼれりニ六神工
 ホバの契約の櫃を昇ところのレビ人を助けたまひければ牡牛
 七匹牡羊七匹を獻げたりニ七ダビデは細布の衣をまとへり又

契約の櫃を昇ところの一切のレビ人と謳歌者および負其事を
 主どれるケナニヤも然りダビデはまた白布のエポテを着居たり
 ニ八斯てイスラエルみな聲を擧げ角を吹ならし喇叭と鏡鉞と瑟
 と琴とをもて打はやしてエホバの契約の櫃を昇のぼれりニ九エ
 ホバの契約の櫃ダビデの邑にいりし時サウルの女ミカル慮よ
 り窺ひてダビデ王の舞躍るを見その心にこれを藐視めり
 第一六章一人々神の契約の櫃を昇りて之をダビデがその爲に
 張たる幕屋の中に置爰而して燔祭と酬恩祭を神の前に獻げたり
 ニダビデ燔祭と酬恩祭を獻ぐることを終しかばエホバの名をも
 て民を祝しニイスラエルの衆庶に男にも女にも都てパン一箇肉
 一片乾葡萄一塊を分ち與へたり四ダビデまたレビ人を立てエ
 ホバの契約の櫃の前にて職事をなさしめ又イスラエルの神工エ
 ホバを崇め讃めかつ頌へしめたり五伶長はアサフその次はゼカ
 リヤ、エイエル、セミラモテ、エヒエル、マツタテヤ、エリアブ、
 ベナヤ、オベデエドム、エイエルこれは瑟と琴とを弾じアサフは
 鏡鉞を打鳴し六また祭司ベナヤとヤハジエルは喇叭をとりて恒
 に神の契約の櫃の前に侍れり七當日ダビデ始めてアサフとその
 兄弟等を立てエホバを頌へしめたり其言に云くハエホバに
 感謝しその名をよびその作たまへることをもるもの民輩の中
 にしらしめよ九エホバにむかひてうたへエホバを讃うたへその
 もるもの奇しき跡をかたれニ〇そのきよき名をほこれエホバ
 をたつめるもの心はよろこぶべしニエホバとその能力とを

たづねよ恒にその聖顔をたづねよ二三その僕イスラエルの裔
 よヤコダの子輩よそのえらびたまひし所のものよそのなしたま
 へる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ四
 彼はわれらの神エホバなりそのおほくの審判は全地にあり五
 なんぢらたえずその契約をここに記よ此はよろづ代に命じた
 まひし聖言なり一六 アブラハムとむすびたまひし契約イサクに
 與へたまひし誓なり一七之をかたくしヤコブのために律法とな
 しイスラエルのためにとこしへの契約となして一八言たまひけ
 るは我なんぢにカナン之地をたまひてなんぢらの嗣業の分とな
 さん一九この時なんぢらの數おほからず甚すくなくしてかこ
 にて旅人となり二〇この國よりの國にゆきこの國よりほかの
 民にゆけり二一人のかれらを虐ぐるをゆるしたまはずかれらの
 故によりて王たちを懲しめて二三宣給くわが受膏者たちにふる
 るなかれわが預言者たちをそこなふなかれ三全地よエホバに
 むかひて謳へ日ごとにその拯救をのべつたへよ四 もるもるの
 國のなかにその榮光をあらはしもるもるの民のなかにその奇
 しきみわざを顯すべし五そはエホバはおほいなり大にほめた
 たふべきものなりまたもるもるの神にまさりて畏るべきものな
 り六もるもるの民のすべての神はことごとく虚しされどエホ
 ばもるもるの天をつくりたまへり七 尊貴と稜威とはその前に
 あり能とよるこびとはその聖所にあり八もるもるのたみの
 諸族よ榮光とちからとをエホバにあたへよエホバにあたへよ

九その聖名にかなふ榮光をもてエホバにあたへ獻物をたづさ
 へて其前にきたれきよき美はしき物をもてエホバを拝め三〇
 全地よその前にをのけ世界もかたくたちて動かさるることな
 し三 天はよろこび地はたのしむべしもるもるの國のなかにい
 へエホバは統治たまふ三 海とそのなかに盈るものとはなりど
 よみ田畑とその中のすべての物とはよろこぶべし三三かくて林
 のもるもるの樹もまたエホバの前によるこびうたはんエホバ地
 をさばかんとて來りたまふ三四 エホバに感謝せよそのめぐみは
 ふかくその憐憫はかぎりなし三五 汝ら言へ我らの拯救の神よ我
 らを救ひ我らを取り集め列邦のなかより救ひいだしたまへ我ら
 は聖名に謝しなんぢのほむべき事をほこらん三六 イスラエルの
 神エホバは窮なきより窮なきまでほむべきかなすすべての民は
 アーメンとなへてエホバを讃稱へたり三七 ダビデはアサフと
 その兄弟等をエホバの契約の櫃の前に留めおきて契約の櫃の
 前に常に侍りて日々事を執行なはせたり三八 オベデエドムと
 その兄弟等は合せて六十八人またエドトンの子なるオベデエ
 ドムおよびホサは司門たり三九 祭司ザドクおよびその兄弟たる
 祭司等はギベオンなる崇 邱においてエホバの天幕の前に侍り四
 〇 燔祭の壇の上にて朝夕斷ず燔祭をエホバに献げ且エホバがイ
 スラエルに命じたまひし律法に記されたる諸の事を行へり四一
 またヘマン、エドトンおよびその餘の選ばれて名を記されたる
 者等彼らとともにおいてエホバの恩寵の世々限なきを讃まつ

れり四二 即ちヘマンおよびアドトンかれらとともに居て喇叭鏡鉞など神の樂器を操て樂を奏せり又アドトンの子等は門を守れり四三 かくて民みな各々その家にかへれり又ダビデはその家族を祝せんとて還りゆけり

第一七章一ダビデその家に住にいたりてダビデ預言者ナタンに言けるは觀よ我は香柏の家に住む然れどもエホバの契約の櫃は幕の下にありとニナタン、ダビデに言けるは神なんぢとともに在せば凡て汝の心にある所を爲せ三その夜神の言ナタンに臨みて曰く四 往てわが僕ダビデに言へエホバかく言ふ汝は我ために我の住べき家を建べからず五 我はイスラエルを導びき上りし日より今日にいたるまで家に住しこと無し但幕屋より幕屋に移り天幕より天幕に遷れり六 我イスラエルの人々と共に歩みたる處々にて我わが民を牧養ふことを命じたるイスラエルの士師の一人にもなんぢ何故に香柏の家を我ために建ざるやと一言にても言し事ありや七 然ば汝わが僕ダビデに斯言べし萬軍のエホバかく言ふ我なんぢを牧場より取り羊に隨がふ處より取て我民イスラエルの君長と爲し八 汝が凡て往る處にて汝と偕にあり汝の諸の敵を汝の前より斷されり我また世の中の大なる人の名のごとき名を汝に得させん九 かつ我わが民イスラエルのために處を定めて彼らを植つけ彼らをして自己の處に住て重て動くこと無らしめん一〇 又惡人昔のごとく即ち我民イスラエルの上に士師を立てたる時より已來のごとく重ねて彼らを荒すこと無る

べし我汝の諸の敵を屈服ん且今我汝に告ぐエホバまた汝のために家を建ん二 汝の日の満汝ゆきて先祖等と偕になる時は我汝の生る汝の子を汝の後に立て且その國を堅つせん三 彼わが爲に家を建ん我ながく彼の位を堅うせん三 我は彼の父となり彼はわが子となるべし我は汝の先にありし者より取たるごとくに彼よりは我恩恵を取さらじ一四 却て我かれを永く我家に我國に居置ん彼の位は何時までも堅く立べし一五 ナタン凡て是等の言のごとく凡てこの異象のごとくダビデに語りければ一六 ダビデ王入てエホバの前に坐して言けるはエホバ神よ我は誰わが家は何なれば汝此まで我を導きたまひしや一七 神よ是はなほ汝の目には小き事たりエホバ神よ汝はまた僕の家の後事を語り高き者のごとくに我を見働たまへり一八 僕の名譽についてはダビデこの上何をか汝に望むべけん汝は僕を知たまふなり一九 エホバよ汝は僕のため又なんぢの心に循ひて此ももるの大なる事を爲し此すべての大なる事を示たまへり二〇 エホバよ我らが凡て耳に聞る所に依ば汝のごとき者は無くまた汝の外に神は無し二 地の何の國か汝の民イスラエルに如ん是は在昔神の往て贖ひて己の民となして大なる畏るべき事を行なひて名を得たまひし者なり汝はそのエジプトより贖ひいだせし汝の民の前より國々の人を逐はらひたまへり三 而して汝は汝の民イスラエルを永く汝の民となしたまふエホバよ汝は彼らの神となりたまへり三 然ばエホバよ汝が僕とその家につきて宣まひし言を永

く堅つして汝の言し如く爲たまへ二四 願くは汝の名の堅く立ち
 永久に崇められて萬軍のエホバ、イスラエルの神はイスラエル
 に神たりと曰れんことを願くは僕ダビデの家の汝の前に堅く
 立んことを三 我神よ汝は僕の耳に示して之が爲に家を建んと
 宣へり是によりて僕なんぢの前に祈る道を得たり二六 エホバよ
 汝は即ち神にましまし此恩典を僕に傳たまへり二七 願くは今僕
 の家を祝福て汝の前に永く在しめたまへ其はエホバよ汝の祝福
 たまへる者は永く祝福を蒙ればなり

第一八章 此後ダビデ、ベリシテ人を撃てこれを服し又ベリシ
 テ人の手よりガテとその郷里を取り二 彼またモアダを撃ければ
 モアブ人はダビデの臣となりて貢を納たり三 ダビデまたハマテ
 の邊にてゾバの王ハダレゼルを撃り是は彼がユフラテ河の邊に
 てその權勢を振はんとて往る時なりき四 而してダビデ彼より車
 千輛騎兵七千歩兵二萬を取りダビデまた一百の車の馬を存し
 てその餘の車馬は皆その足の筋を切り五 その時ダマスコのスリ
 ア人ゾバの王ハダレゼルを援けんとて來りければダビデそのス
 リア人二萬二千を殺せり六 而してダビデ、ダマスコのスリアに
 鎮臺を置ぬスリア人は貢を納てダビデの臣となれりエホバ、ダ
 ビデを凡てその往く處にて助たまへりモダビデ、ハダレゼルの
 臣僕等の持る金の櫛を奪ひて之をエルサレムに持きたり八 また
 ハダレゼルの邑テブハテとクンより甚だ衆多の銅を取きたれり
 ソロモンこれを用て銅の海と柱と銅の器具を造れり九 時にハマ

テの王トイ、ダビデがゾバの王ハダレゼルの總の軍勢を撃破り
 しを聞いて二〇 その子ハドラムをダビデ王に遣し安否を問ひかつ
 これを賀せしむ其はハダレゼル曾てトイと戰鬪をなしたるにダ
 ビデ、ハダレゼルと戰ひて之を撃やぶりたればなりハドラム
 金銀および銅の種々の器を携へきたりければ二 ダビデ王その
 エドム、モアブ、アンモンの子孫ベリシテ人アマレクなどの諸の
 國民の中より取きたりし金銀とともに是等をもエホバに奉納た
 り三 ゼルヤの子アビシヤイ鹽谷にてエドム人一萬八千を殺せ
 り三 斯てダビデ、エドムに鎮臺を置エドム人は皆ダビデの臣と
 なりぬエホバかくダビデを凡その往處にて助けたまへり四 ダ
 ビデはイスラエルの全地を治めてその諸の民に公平と正義を行
 へり五 ゼルヤの子ヨアブは軍旅の長アヒルデの子ヨシヤパテ
 は史官一六 アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは
 祭司シヤウシヤは書記官一七 エホヤダの子ベナヤはケレテ人と
 ベレテ人の長ダビデの子等は王の座側に侍る大臣なりき

第一九章 此後アンモンの子孫の王ナハシ死ければその子これ
 に代りて王となりたり二 ダビデ言けるは我ナハシの子ヌンをね
 んごころに遇らはんかかれが父われをねんごころにあしらひたればな
 りとダビデすなはち彼をその父の故によりて慰めんとして使者を
 遣はせりダビデの臣僕等アンモンの子孫の地に往きハヌンに詣
 りてこれを慰めけるに三 アンモンの子孫の牧伯等ハヌンに言け
 るはダビデ慰籍者を汝につかはしたるに因て彼なんぢの父を

尊ぶと汝の目に見ゆるや彼の臣僕等は此國を窺ひ探りて滅ぼさんとて來れるならずやと四是においてハヌン、ダビデの臣僕等を執へてその鬚を剃おとしその衣服を中より斷て鬻までにして之を歸したりしが五或人きたりて此人々の爲られし事をダビデに告げればダビデ人をつかはして之を迎へしめたりその人々おほいに愧たればなり即ち王いひけるは汝ら鬚の長るまでエリコに止まりて然る後かへるべしと六アンモンの子孫自己のダビデに惡まるる様になれるを見しかばハヌンおよびアンモンの子孫すなはち銀一千タラントをおくりてメソポタミヤとスリアマアカおよびゾバより戰車と騎兵とを雇ひいれたり七即ち戰車三萬二千乘にマアカの王とその兵士を雇ひければ彼ら來りてメデバの前に陣を張り是においてアンモンの子孫その邑々より寄あつまりて戰はんとて來れりハダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣しけるに九アンモンの子孫は出て邑の門の前に戰爭の陣列をなせり又援助に來れる王等は別に野に居り一〇時にヨアブ前後より敵の攻寄るを見てイスラエルの倔強の兵士の中を抽擢て之をしてスリア人にむかひて陣列しめ一その餘の民をばその兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫にむかひて陣列しめ二而して言けるはスリア人もし我に手強からは汝我を助けよアンモンの子孫もし汝に手強からは我なんちを助けん二三汝勇しくなれよ我儕の民のためと我らの神の諸邑のため我ら勇しく爲ん願くはエホバその目に善と見ゆる所をなし

たまへと一四ヨアブ己に従へる民とともに進みよりてスリア人を攻撃けるにスリア人かれの前より潰奔れり一五アンモンの子孫はスリア人の潰奔れるを見て自己等もまたその兄弟アビシヤイの前より逃奔りて城邑にいりぬ是においてヨアブはエルサレムに歸れり一六スリア人はそのイスラエルに擊やぶられたるを見て使者を遣はして河の彼旁なるスリア人を將あせりハダレゼルの軍旅の長シヨバクこれを率ゆ一七その事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めヨルダンを渡りて彼らの所に來り之にむかひて戰爭の陣列を立たりダビデかく彼らにむかひて戰爭の陣列を立たれば彼らこれと戰へり一八然るにスリア人イスラエルの前に潰たればダビデ、スリアの兵車の人七千歩兵四萬を殺しまた軍旅の長シヨバクを殺せり一九ハダレゼルの臣たる者等そのイスラエルに擊やぶられたるを見てダビデと和睦をなしてこれが臣となれりスリア人は此後ふたたびアンモンの子孫を助くることを爲ざりき

第二〇章一年かへりて王等の戰爭に出る時におよびてヨアブ軍勢を率ゐて出でアンモン人の地を打荒し往てラバを攻圍りされどダビデはエルサレムに止まりたりヨアブつひにラバを撃壞りてこれを滅ばせりニダビデ彼らの王の冠冕をその首より取はなしたりしがその金の重を量り見るに一タラントありまたその中に寶石を嵌たるありき之をダビデの首に冠せたり彼また甚だ衆多の掠取物をその邑より取り三而して彼またその中の民

を曳いだし鋸と鐵の打車と斧とをもてこれを斬りダビデ、アン
 モンの子孫の一切の邑に斯く爲り而してダビデとその民はみな
 エルサレムに歸りぬ四この後ゲゼルにおいてペリシテ人と戦争
 おこりたりしがその時にホシヤ人シベカイ巨人の子孫の一人
 なるシバイを殺せり彼等つひに攻伏られき五復ペリシテ人と
 戦争ありしがヤイルの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラ
 ミを殺せりラミの槍の柄は機の膝の如くなりき六またガテに
 戦争ありしが其處に一人の身長き人ありその手の指と足の趾は
 六宛にして合せて二十四あり彼も巨人の生る者なりき七彼イス
 ラエルを挑みしかばダビデの兄弟シメアの子ヨナタンこれを
 殺せり八是等はガテにて巨人の生る者なりしがダビデの手とそ
 の臣僕の手に斃れたり

第二章一茲にサタン起りてイスラエルに敵しダビデを感動し
 てイスラエルを核數しめんとせりニダビデすなはちヨアブと民
 の牧伯等に言けるは汝等ゆきてベエルシバよりダンまでのイス
 ラエル人を數へその數をとりきたりて我に知せよ三ヨアブ答へ
 けるは幾何あるとも願くはエホバその民を百倍に増たまへ然
 ながら王わが主よ是はみな我主の僕ならずや然に何とて我主こ
 の事を爲んと要たまふや何ぞイスラエルをして之によりて罪を
 獲せしむべけんやと四されど王つひにヨアブに言勝たればヨア
 ブすなはち出ゆきイスラエルを徧く行めぐりてエルサレムに還
 れり五而してヨアブ民の總數をダビデに告たり即ちイスラエル

の中には劍を帶る者一百十萬人ありユダの中には劍を帶る者
 四十七萬人ありき六但しレビとベニヤミンとはその中に數へざ
 りき其はヨアブ王の言を惡みたればなり七この事神の目に惡か
 りければイスラエルを撃なやましたまへり八ダビデ是において
 神に申しけるは我この事をなして大に罪を獲たり然ども今なが
 はくは僕の罪を除きたまへ我はなはだ愚なる事をなせりと九時
 にエホバ、ダビデの先見者ガテにきて言たまひけるは一往てダ
 ビデに告て言へエホバかく言ふ我なんぢに三のものを示す汝そ
 の一を撰べ我それを汝に爲んと二ガテすなはちダビデの許に
 至り之に言けるはエホバかく言たまふ汝擇べよ三即ち三年の
 饑饉か又は汝三月の間汝の敵の前に敗れて汝の仇の劍に追し
 かれんか又は三日の間エホバの劍すなはち疫病この國にあり
 てエホバの使者イスラエルの四方の境の中にて撃滅ぼすことを
 せんか我が如何なる答を我を遣せし者に爲べきかを汝決めよ
 三ダビデ、ガテに言けるは我おほいに苦む請ふ我はエホバの手
 に陥らん其憐憫甚だおほいなればなり人の手には陥らじと四
 是においてエホバ、イスラエルに疫病を降したまひければイス
 ラエルの人七萬人斃れたり五神また使者をエルサレムに遣し
 てこれを滅ぼさんとしたまひしが其これを滅ぼすにあたりてエ
 ホバ視てこの禍害をなせしを悔い其ほろぼす使者に言たまひけ
 るは足り今なんぢの手を住めよ時にエホバの使者はエブス人
 オルナンの打場の傍に立をる一六ダビデ目をあげて視るにエホ

バの使者地と天の間に立て拔身の劍を手にとりてエルサレムの
 方にこれを伸をりければダビデと長老等麻布を衣て俯伏し七
 りしてダビデ神に申しけるは民を數へよと命せし者は我ならず
 や罪を犯し惡き事をなしたる者は我なり然れども是等の羊は何
 をなせしや我神エホバよ請ふ汝の手を我とわが父の家に加へた
 まへ惟汝の民に加へて之を疚めたまふ勿れと一八時にエホバの
 使者ガデに命じ汝ダビデに告てダビデをして上りゆきてエブ
 ス人オルナンに命じ汝ダビデに告てダビデをして上りゆきてエブ
 言り一九是においてダビデはガデがエホバの名をもて告たる言
 にしたがひて上りゆけり二〇オルナンは麥を打みけるが回顧て
 天の使の居るを視その四人の子等とともに匿れたりニやがて
 ダビデはオルナンの方に來りけるがオルナン望てダビデを見
 すなはち打場より出ゆきて面を地につけてダビデを拝せりニ
 ダビデ、オルナンに言けるは此打場の處を我に與へよ我そこに
 てエホバに一箇の壇を築かん汝その十分の値をととりて之を我に
 あたへ災害の民におよぶことを止めしめよ三オルナン、ダビデ
 に言けるは請ふ之を取り王が主の目に善と觀るところを爲た
 まへ我なちに獻げて牛を燔祭の料とし打禾車を柴薪とし麥を
 素祭とせん我みなこれを奉呈ると四ダビデ王オルナンに言け
 るは然るべからず我かならず十分の値をはらひて之を買ん我は
 汝の物を取てエホバに奉まつらじ又費なしに燔祭を獻ぐるこ
 とをせじと三五ダビデすなはち其處のために金六百シケルを

衡りてオルナンに與へたり二六而してダビデ其處にてエホバに
 一箇の祭壇を築き燔祭と酬恩祭を獻げてエホバを齎けるに天よ
 り燔祭の壇の上に火を降して之に應へたまへり二七エホバすな
 はちその使者に命じたまひければ彼その劍を鞘に蔵めたり二八
 その時ダビデはエホバがエブス人オルナンに打場において己に
 應へたまふを見れば其處にて犠牲を獻ぐることを爲り二九
 モーセが荒野にて造りたるエホバの幕屋と燔祭の壇とは當時ギ
 ベオンの崇邱にありけるが三〇ダビデはその前に進みゆきて神
 に求むることを得せざりき是は彼エホバの使者の劍のために懼
 れたるに因てなり

第二章一ダビデ言けるはエホバ神の室は此なりイスラエルの
 燔祭の壇は此なりと二ダビデすなはち命じてイスラエルの地に
 居る異邦人を集めしめ又神の室を建るに用ふる石を琢ために
 石工を設けたり三ダビデまた門の扉の釘および鋸に用ふる鐵を
 夥しく備へたり又銅を數しれぬほどに夥しく備へたり四また
 香柏を備ふること數しれず是はシドン人およびツロの者夥多し
 く香柏をダビデの所に運びきたりたればなり五ダビデ言けるは
 我がソロモンは少くして弱し又エホバのために建る室は極めて
 高大にして萬國に名を得榮を得る者たらざる可らず今我其が
 ために準備をなさんとダビデその死る前に大に之が準備をなせ
 り六而して彼その子ソロモンを召てイスラエルの神エホバのた
 めに家を建ることを之に命ぜり七 即ちダビデ、ソロモンに言け

るは我子よ我は我神エホバの名のために家を建る志ありきハ然るにエホバの言われに臨みて言り汝は多くの血を流し大なる戦争を爲したり汝我前にて多の血を地に流したれば我名の爲に家を建べからず九視よ男子汝に生れん是は平安の人なるべし我これに平安を賜ひてその四周の諸の敵に煩はさるること無らしめん故に彼の名はソロモン(平安)といふべし彼の世に我平安と静謐をイスラエルに賜はん○彼わが名のために家を建ん彼はわが子となり我は彼の父とならん我かれの國の祚を固うして永くイスラエルの上に立しめん○然ば我子よ願くはエホバ汝とともに在し汝を盛ならしめ汝の神エホバの室を建させて其なんちにつきて言たる如くしたまはんことを○惟ねがはくはエホバ汝に智慧と穎悟を賜ひ汝をイスラエルの上に立て汝の神エホバの律法を汝に守らせたまはんことを○汝もしエホバがイスラエルにつきてモーセに命じたまひし法度と例規を謹みて行はば汝旺盛になるべし心を強くしかつ勇め懼るる勿れ慄くなかれ○四視よ我患難の中にてエホバの室のために金十萬タラント銀百萬タラントを備へまた銅と鐵とを敷しれぬほど夥多しく備へたり又材木と石をも備へたり汝またこれに加ふべし○五かつまた工人夥多しく汝の手にあり即ち石や木を琢刻む者および諸の工作を爲すところの工匠など都てあり○六夫金銀銅鐵は數限りなし汝起て爲せ願くはエホバ汝とともに在せと○七ダビデまたイスラエルの一切の牧伯等にその子ソロモンを助くるこ

とを命じて云く○八汝らの神エホバなんぢらと偕に在すならずや四方において泰平を汝らに賜へるならずや即ちこの地の民を我手に付したまひてこの地はエホバの前とその民の前に服せり○九然ば汝ら心をこめ精神をこめて汝らの神エホバを求めよ汝ら起てエホバ神の聖所を建てエホバの名のために建るその室にエホバの契約の櫃と神の聖器を携さへいるべし

第二章○ダビデ老てその日滿ければその子ソロモンをイスラエルの王となせり○ダビデ、イスラエルの一切の牧伯および祭司とレビ人をあつめたり○レビ人の三十歳以上なる者を數へたるにその人々の頭數は三萬八千四○その中二萬四千はエホバの室の事幹を掌どり六千は有司および裁判人たり○四五千は門を守る者たりまた四千はダビデが造れる讚美の樂器をとりてエホバを頌ることをせり○六ダビデ、レビの子孫を分ちて班列を立てり即ちゲルシヨン、コハテおよびメラリ七ゲルシヨン人たる者はラダンおよびシメイハラダンの子等は長エヒエルにゼタムとヨエル合せて三人九シメイの子等はシロミテ、ハジエル、ハランの三人是等はラダンの宗家の長たり○シメイの子等はヤハテ、ジナ、エウシ、ベリアこの四人はシメイの子なり○ヤハテは長ジナはその次エウシ、ベリアは子多からざるが故に之をともに數へて一の宗家となせり○コハテの子等はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルの四人○三アムラムの子等はアロンとモーセ、アロンはその子等とともに永く區別れてその身を潔め

て至聖者となりエホバの前に香を焚ぎ之に事へ恒にこれが名をもて祝することを爲り二四神の人モーセの子等はレビの支派の中に數へいれらる二五モーセの子等はゲルシオンおよびエリエゼル六ゲルシヨンの子等は長はシブエル七エリエゼルの子等は長はレハビヤ、エリエゼルは此外に男子あらざりき但しレハビヤの子等は甚だ多かりきハイツハルの子等は長はシロミテ九ヘブロンの子等は長子はエリヤその次はアマリヤその三はヤハジエルその四はエカメアム〇ウジエルの子等は長子はミカ次はエシヤニメラリの子等はマヘリおよびムシ、マヘリの子等はエレアザルおよびキシニエレアザルは男子なくして死り惟女子ありし而已その女子等はキシの子たるその兄弟等これを娶れり三ムシの子等はマヘリ、エデル、エレモテの三人二四レビの子孫をその宗家に循ひて言は是のことは是皆かの頭數を數へられその名を録されてエホバの家の役事をなせる二十歳以上の者の宗家の長なり二五ダビデ言けらくイスラエルの神エホバその民を安んじて永くエルサレムに住たまふ二六レビ人はまた重ねて幕屋およびその奉事の器具を昇ことあらずと二七ダビデの最後の詞にしたがひてレビ人は二十歳以上よりして數へられたり二八彼らの職はアロンの子孫等の手に屬して神の家の役事を爲し庭と諸の室の用を爲し一切の聖物を潔むるなど凡て神の家の役事を勤むるの事なりき二九また供前のパン素祭の麥粉酵いれぬ菓子鍋にて製る者焼て製る者などを掌ど

りまた凡て容積と長短を量度ることを掌どり三〇また朝ごとに立てエホバを頌へ讚むることを掌どり夕もまた然り三一又安息日と朔日と節會においてエホバに諸の燔祭を獻げ其命ぜられたる所に循ひて數のごとくに斷ずこれをエホバの前たてまつる事を掌どり三二是のごとく彼らは集會の幕屋の職守と聖所の職守とアロンの子孫たるその兄弟等の職守とを守りてエホバの家の役事をおこなふ可りしなり
 第二四章一アロンの子孫の班列は左のごとしアロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルニナダブとアビウはその父に先だちて死て子なかりければエレアザルとイタマル祭司となれり三ダビデ、エレアザルの子孫ザドクおよびイタマルの子孫アヒメレクとともに彼らを分ちて各その職と務に任じたり四エレアザルの子孫の中にはイタマルの子孫の中よりも長たる人多かりき是をもてその分かれし班列はエレアザルの子孫たる宗家の長には十六ありイタマルの子孫たる宗家の長には八あり五斯彼らは籤によりて分たると此と相等し其は聖所の督者および神の督者はエレアザルの子孫の中よりも出でイタマルの子孫の中よりも出ればなり六レビ人ネタネルの子シマヤといふ書記王と牧伯等と祭司ザドクとアビヤタルの子アヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長の前にて之を書しるせり即ちエレアザルのために宗家一を取ばまたイタマルのために宗家一を取り七第一の籤はヨアリブに當り第二はエダヤに當り八第三はハリム

に當り第四はセオリムに當り第五はマルキヤに當り第六はミヤミンに當り第七はハツコツに當り第八はアビヤに當り第九はエシユアに當り第十はシカニヤに當り第十一はエリアシブに當り第十二はヤキンに當り第十三はホツバに當り第十四はエシバブに當り第十五はビルガに當り第十六はインメルに當り第十七はヘヅルに當り第十八はハビセツに當り第十九はベタヒヤに當り第二十はエゼキエルに當り第二十一はヤキンに當り第二十二はガムルに當り第二十三はデラヤに當り第二十四はマアジアに當り第二十五はその職務の順序なり彼らは之にしたがひてエホバの家にいり其先祖アロンより傳はりし例規によりて勤むべかりしなり即ちイスラエルの神エホバの彼に命じたまひしことし○その餘のレビの子孫は左の如しアムラムの子等の中にはシュバエル、シュバエルの子等の中にはエデヤニレハビヤについてはレハビヤの子等の中には長子イツシアニイツハリ人の中にはシロミテ、シロミテの子等の中にはヤハテニヘプロンの子等の中には長子エリヤニ子アマリヤニ子ヤハシエル四子エカメアムニ四ウジエルの子等の中にはミカ、ミカの子等の中にはシヤミルニ五ミカの兄弟をイツシアといふイツシアの子等の中にはゼカリヤニメラリの子等はマヘリおよびムシ、ヤシアの子等はベノニメラリの子孫のヤシアより出たる者はベノ、シヨハム、ザツクル、イブリニハマヘリよりエレアザル出たりエレアザルは子等

なかりきニ九キシについてはキシの子はエラメルニ○ムシの子等はマヘリ、エデル、エリモテ是等はレビの子孫にしてその宗家にしたがひて言る者なりニ○是らのももまたダビデ王とザドクとアヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長たる者等の前にてアロンの子孫たるその兄弟等のごとく籤を擧り兄の宗家も弟の宗家も異なること無りき
第二章ニダビデと軍旅の牧伯等またアサフ、ヘマンおよびエドトンの子等を選びて職に任じ之をして琴と瑟と鑢鈸を執て預言せしむその職によれば伶人の數左のごとしニアサフの子等はザツクル、ヨセフ、ネタニア、アサレラ皆アサフの子等にアサフの手に屬すアサフは王の手につきて預言すニエドトンについてはエドトンの子等はゲダリア、ゼリ、エサヤ、ハシヤヒヤ、マツタテヤの六人皆琴を操てその父エドトンの手に屬すエドトンはエホバを讃めかつ頌へて預言す四ヘマンについてはヘマンの子等たる者はブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シフエル、エレモテ、ハナニヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルテ、ロママテエゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハシオテ五是みな神の言をつたふる王の先見者ヘマンの子等にして角を擧ぐ神ヘマンに男子十四人女子三人を賜へり六是等の者は皆その父の手に屬しエホバの家に於て歌を謡ひ鑢鈸と瑟と琴をもて神の家の奉事をなせりアサフ、エドトンおよびヘマンは王の手につけり七彼等およびエホバに歌を謡ふことを習へるその兄弟等即ち

巧なる者の數は二百八十八人、彼ら大も小も巧なる者も習ふ者も皆ともにその職務の籤を擧げるが九第一の籤はアサフの家のヨセフに當り第二はゲダリアに當れり彼もその兄弟等および子等十二人、第三はザツクルに當れりその子等とその兄弟等十二人、第四はイツリに當れりその子等とその兄弟等十二人、第五はネタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第六はブツキアに當れりその子等とその兄弟等十二人、第七はアサレラに當れりその子等とその兄弟等十二人、第八はエサヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第九はマツタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十はシメイに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十一はアザリエルに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十二はハシヤピアに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十三はシュバエルに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十四はマツタテヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十五はエレモテに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十六はハナニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十七はヨシベカシヤに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十八はマロテに當れりその子等とその兄弟等十二人、第十九はマロテに當れりその子等とその兄弟等十二人、第二十はエリアタに當れりその子等とその兄弟等十二人、第二十一はホテルに當れりその子等とその兄弟等十二人、第二十二はギダルテに當れりその

子等とその兄弟等十二人、第二十三はマハジオテに當れりその子等とその兄弟等十二人、第二十四はロラムテエゼルに當れりその子等とその兄弟等十二人、第二十五章一門を守る者の班列は左のごとしコラ人の中にてはアサフの子コレの子なるメシレミヤニメシレミヤの子等は長子はゼカリヤその次はエデアエルその三はゼバデヤその四はヤテニエル、その五はエラムその六はヨハナンその七はエリヨエナイ、四またオベデエドムの子等は長子はシマヤその次はヨザバデその三はヨアその四はサカルその五はネタネル、その六はアシミエル、その七はイツサカル、その八はピウレイ、是は神かれを祝福たまひしなり、六また彼の子シマヤにも數人の子生れたりしがその子等は、大勇士にしてその父の家の主たる者なりき、すなはちシマヤの子等はオテニ、レバエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟、エリウとセマキヤは力ある人なりき、八はみなオベデエドムの孫子なり、彼らとその子等および其兄弟等は合せて六十二人、皆力ある者にしてその職に堪ふ、是はみなオベデエドムに屬する者なり、九メシレミヤも子等と兄弟等合せて十八人あり、皆力ある者なり、き、〇メラリの子孫、ホサもまた子等あり、其長はシムリ、是は長子ならざりしかども、その父これを長となせしなり、二その次はヒルキヤ、その三はデバリヤ、その四はゼカリヤ、ホサの子等と兄弟等は合せて十三人、三門を守るところの班列、此長等の中より出でみなその兄弟と等しく勤務をなして、五

ホバの家に仕ふニ彼ら門々を分つために小も大もともにその宗家に循ひて籤を擧たりしが四東の方の籤はシレミヤに當れり又その子ゼカリヤのために籤を擧けるに北の方の籤これに當れりゼカリヤは智慧ある議士なりきニ五オベデエドムは南の方の籤に當りその子等は倉の籤に當れりニ六シユパムおよびホサは西の方の籤にあたり坂の大路にあるシヤレケテの門の傍に居り守者はみな相對ふニ七東の方にはレビ人六人北の方には日々四人南の方にも日々四人倉のかたはらには二人に二人ニ八西の方バルバルにおいては大路に四人バルバルに一人九門を守る者の班列は是の事皆コラの子孫とメラリの子孫なりニ〇また神の府庫および聖物の府庫を司とれる彼らの兄弟なるレビ人は左のごとしニラダンの子孫すなはちラダンより出たるゲルシヨン人にしてゲルシヨン人ラダンの宗家の長たる者の中にてはエヒエリニおよびエヒエリの子等ならびにその兄弟ゼタムとヨエル是らはエホバの家の府庫を司とれりニ三アムラム人イツハリ人へブロン人ウジエリ人の中においては左のごとし

二四モ一セの子ゲルシヨムの子なるシブエルは府庫の宰たりニ五その兄弟にしてエリエゼルより出たる者は即ちエリエゼルの子レヒヤその子エサヤその子ヨラムその子シクリその子シロミテニ六此シロミテとその兄弟等はすべての聖物の府庫を掌どれりその聖物はすなはちダビデ王宗家の長千人の長百人の長軍旅の長等などが奉納たる者なりニ七即ち戰爭において獲

たる物および掠取物を奉納てエホバの家の修繕に供へたるなり

二八凡て先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、ゼルヤの子ヨアブ等が奉獻たる物および其他の奉納物は皆シロミテとその兄弟等の手の下にありきニ九イツハリ人の中にてはケナニヤとその子等イスラエルの外事を理め有司となり裁判人となれりニ〇へブロン人の中にはハシヤバおよびその兄弟などの勇士一千七百人ありてヨルダンの此旁すなはち西の方にてイスラエルの監督者となりエホバの一切の事を行ひ王の用を爲りニ一へブロン人の中にはその系譜と宗家とに依ばエリヤといふ者へブロン人の長なりダビデの治世の四十年に彼らを尋ね求めギレアデのヤゼルにおいて彼らの中より大勇士を得たりニ二エリヤの兄弟たる勇士は二千七百人にして皆宗家の長たりダビデ王かれらをしてルベン人ガド人およびマナセの半支派を監督しめ神につける事と王につける事を幸とらせたり

第二十七章イスラエルの子孫すなはち宗家の長千人の長百人の長およびその有司等は年の惣の月のあひだ月ごとに更り入り更り出で其班列の諸の事をつとめて王に事へたるが其數を按ぶるに一班列に二萬四千人ありきニ先第一の班列すなはち正月の分はザブデエルの子ヤシヨベアムこれを率ゆ其班列は二萬四千人ニ彼は正月の軍團の長等の首たる者にしてペレツの子孫なり四二月の班列はアホア人ドダイその班列の者とともにこれを率ゆミクロテといふ宰あり其班列は二萬四千人五三月の軍團

を統る第三の將は祭司の長エホヤダの子ベナヤその班列は二萬四千人六このベナヤはかの三十人の中の勇士にして三十人の上にたてり彼の子アミザバデその班列にあり七四月の分を統る第四の將はヨアブの弟アサヘルにしてその子ゼバデヤこれに次り其班列は二萬四千人八五月の分を統る第五の將はイズラヒシヤンモテその班列は二萬四千人九六月の分を統る第六の將はテコア人イツケシの子イラその班列は二萬四千人一〇七月の分を統る第七の將はエフライムの子孫たるペロ二人ヘレツその班列は二萬四千人二八月の分を統る第八の將はゼラの子孫たるホシヤ人シベカイその班列は二萬四千人三九月の分を統る第九の將はベニヤミンの子孫たるアナトテ人アビエゼルその班列は二萬四千人三十月の分を統る第十の將はゼラの子孫たるネットパ人マハライその班列は二萬四千人一四十一月の分を統る第十一の將はエフライムの子孫たるピラト人ベナヤその班列は二萬四千人一五十二月の分を統る第十二の將はオテニエルの子孫たるネットパ人ヘルダイその班列は二萬四千人一六イスラエルの支派を治むる者は左のごとしルベン人の牧伯はチクリの子エリエゼル、シメオンの牧伯はマアカの子シバテヤ一レビ人の牧伯はケムエルの子ハシヤビヤ、アロン人の牧伯はザドク一ハユダの牧伯はダビデの兄弟エリウ、イツサカルの牧伯はミカエルの子オムリ一九ゼブルンの牧伯はオバデヤの子イシマヤ、ナフタリの牧伯はアズリエルの子エレモテ二〇エフライムの

子孫の牧伯はアザジャの子ホセア、マナセの半支派の牧伯はベダヤの子ヨエルニギレアデなるマナセのご半支派の牧伯はゼカリヤの子イド、ベニヤミンの牧伯はアブネルの子ヤシエル三ダンの牧伯はエロハムの子アザリエル、イスラエルの支派の牧伯等は是のごとし三三歳以下なる者はダビデこれを數へざりき其はエホバかつてイスラエルを増て天空の星のごとくにせんと言たまひしことあればなり二四ゼルヤの子ヨアブ數ふることを始めたりしがこれを爲をへざりきそのかぞふることによりて震怒イスラエルにおよべりその數はまたダビデ王の記録の籍に載ざりき三五アデエルの子アスマウテは王の府庫を掌どりウシヤの子ヨナタンは田野邑々村々城などにある府庫を掌どり二六ケルブの子エズリは地を耕す農業の人を掌どり二モラテ人シメイは葡萄園を掌どりシフミ人ザブデはその葡萄園より取る葡萄酒の蔵を掌どりニハゲテラ人バアルハナンは平野なる橄欖樹と桑樹を掌どりヨアシは油の蔵を掌どりニ九シヤロン人シテナイはシヤロンにて牧ふ牛の群を掌どりアデライの子シヤパテは谷々にある牛の群を掌どり三〇イシマエル人オビルは駱駝を掌どりメロノテ人エデヤは驢馬を掌どり三ハガリ人ヤジスは羊の群を掌どれり是みなダビデ王の所有を掌どれる者なり三またダビデの叔父ヨナタンは議員たり彼は智慧あり學識ある者なり又ハクモニの子エヒエルは王の子等の補佐たり三三アヒトベルは王の議員たりアルキ人ホシヤイは王の伴伯たり三四

アヒトベルに次ぐ者はベナヤの子エホヤダおよびアビヤタル王の軍旅の長はヨアブ

第二八章 茲にダビデ、イスラエルの一切の長支派の長王に事ふる班列の長千人の長百人の長王とその子等の所有及び家畜を掌ぐる者閹官有力者諸勇士などを盡くエルサレムに召集め二而してダビデ王その足にて起て言けるは我兄弟等我民よ我に聽け我はエホバの契約の櫃のため我らの神の足臺のために安居の家を建んと志ありて已にこれを建る準備をなせり三然るに神我に言たまへり汝は我名のために家を建べからず汝は軍人にして許多の血を流したればなりと四然りと雖もイスラエルの神エホバ我父の全家の中より我を選びて永くイスラエルに王たらしめたまふ即ちユダを選びて長となしユダの全家の中より我父の家を選び我父の子等の中にて我を悦びイスラエルの王とならしめたまふ五而してエホバ我に衆多の子をたまひて其わが諸の子等の中より我子ソロモンを選び之をエホバの國の位に坐せしめてイスラエルを治めしめんとしたまふ六エホバまた我に言たまひけるは汝の子ソロモンはわが家および我庭を作らん我かれを選びて吾子となせり我かれの父となるべし七彼もし今日のごとく我誠命と律法を堅く守り行はば我その國を永く堅うせんと八然ば今エホバの會衆たるイスラエルの全家の目の前および我らの神の聞しめす所にて汝らに勸む汝らその神アホバの一切の誠命を守りかつ之を追もとむべし然せば汝等こ

の美地を保ちてこれを汝らの後の子孫に永く傳ふることを得ん九我子ソロモンよ汝の父の神を知り完全心をもて喜び勇んで之に事へよエホバは一切の心を探り一切の思想を曉りたまふなり汝もし之を求めなば之に遇ん然ど汝もし之を棄なば永く汝を棄たまはん一〇然ば汝謹めよエホバ汝を選びて聖所とすべき家を建させんと爲たまへば心を強くしてこれを爲べしと一而してダビデは殿の廊およびその家その府庫その上の室その内の室贖罪所の室などの式様をその子ソロモンに授け二また其心に思ひはかれる一切の物すなはちエホバの家の庭四周の諸の神の家の府庫聖物の府庫などの式様を授け三また祭司およびレビ人の班列とエホバの家の諸の奉事の工とエホバの家の諸の奉事の器皿とにつきて諭すところあり四また諸の奉事に用ふる金の器皿を作る金の重量を定め又諸の奉事の器に用ふる諸の銀の器皿の銀の重量を定む五即ち金の燈臺とその金の燈臺の重量を宣て一切の燈臺とその燈臺の重量を定め又銀の燈臺につきても各々の燈臺の用法にしたがひて燈臺とその燈臺の重量を定め六また供前のパンの案につきてはその各の案のために金の重量を定め又銀の案のためにも銀を定め七又肉鉤孟杓のために用ふる純金の重量を定め金の大罍につきてもまた各々の大罍のために重量を定め銀の一切の大罍のためにも重量を定め八また香壇のために用ふる精金の重量を定めかつ車なるケルビムの式様の金を定む此ケルビムはその翼を展

てエホバの契約の櫃を覆ふ一丸而してダビデ言けらく此工事の式様は皆ことごとくエホバのその手を我上にくだして我を教へて書せたまひし者なりと二〇かくてダビデその子ソロモンに言けるは汝心を強くし勇みてこれを爲せ懼るる勿れ慄くなかれエホバ神我神汝とともに在さん彼かならず汝を離れず汝を棄ず汝をしてエホバの家の奉事の諸の工を成終しめたまふべし二一視よ神の家の諸の役事をなすためには祭司とレビ人の班列あり又諸の工と従事を悦びて爲ところの諸の技巧者汝とともに在り且また牧伯等および一切の民汝の命ずるところを悉く行はん

第二九章一ダビデ王また全會衆に言けるは我子ソロモンは神の惟獨選びたまへる者なるが少くして弱く此工事は大なり此殿は人のために非ずエホバ神のためにする者なればなり二是をもて我力を盡して我神の家のために物を備へたり即ち金の物を作る金銀の物の銀銅の物の銅鐵の物の鐵木の物の木を備へたり又葱珩嵌石黒石火崗諸の寶石蠟石など夥多し三かつまた我わが神の家を悦ぶが故に聖所のために備へたる一切の物の外にまた自己の所有なる金銀をわが神の家に献ぐ四即ちオフルの金三千タラント精銀七千タラントを献げてその家々の壁を蔽ふに供ふ五金は金の物に銀は銀の物に凡て工人の手にて作るものに用ふべし誰か今日自ら進んでエホバのためにその手に物を盈さんかと六是において宗家の長イスラエルの支派の

牧伯等千人の長百人の長および王の工事を掌どる者等誠意より献物をなせり七その神の家の奉事のために献げたるものは金五千タラント一萬ダリク銀一萬タラント銅一萬八千タラント鐵十萬タラント八また寶石ある者はゲルシオン人エヒエルの手に託て之を神の家の府庫に納めたり九彼ら斯誠意よりみづから進んでエホバに献げれば民その献ぐるを喜べりダビデ王もまた大に喜びぬ一茲にダビデ全會衆の前にてエホバを頌へたりダビデの曰く我らの先祖イスラエルの神エホバよ汝は世々限なく頌へまつるべきなり二エホバよ權勢と能力と榮光と光輝と威光とは汝に屬す凡て天にある者地にある者はみな汝に屬すエホバよ國もまた汝に屬す汝は萬有の首と崇られたまふ三富と貴とは共に汝より出づ汝は萬有を主宰たまふ汝の手には權勢と能力あり汝の手は能く一切をして大たらしめ又強くならしむるなり三然ば我儕の神よ我儕今なんちに感謝し汝の尊き名を讚美す四但し我ら斯のごとく自ら進んで獻ぐることを得たるも我は何ならんやまた我民は何ならんや萬の物は汝より出づ我らは只汝の手より受て汝に獻げたるなり五汝の前にありては我らは先祖等のごとく旅客たり寄寓者たり我らの世にある日は影のごとし望む所ある無し六我らの神エホバよ汝の聖名のために汝に家を建んとて我らが備へたる此衆多の物は凡て汝の手より出づ亦皆なんぢの所有なり七我神よ我また知る汝は心を鑿みたまひ又正直を悦びたまふ我は正き心をもて眞實より

此一切の物を献げたり今我また此にある汝の民が眞實より献物をするを見て喜悦にたへざるなり一八我らの先祖アブラハム、イサク、イスラエルの神エホバよ汝の民をして此精神を何時までもその心の思念に保たしめその心を固く汝に歸せしめたまへ一九又わが子ソロモンに完全心を與へ汝の誠命と汝の證言と汝の法度を守らせて之をことごとく行はせ我が備をなせるその殿を建させたまへ二〇ダビデまた全會衆にむかひて汝ら今なんぢらの神エホバを頌へよと言ければ全會衆その先祖等の神エホバを頌へ俯てエホバと王とを拜せり二一而して其翌日に至りてイスラエルの一切の人のためにエホバに犠牲を献げエホバに燔祭を献げたり其牡牛一千牡羊一千羔羊一千またその灌祭と祭物夥多しかりき三その日彼ら大に喜びてエホバの前に食ひかつ飲み/さらに改めてダビデの子ソロモンを王となしエホバの前にてこれに膏をそそぎて主君となし又ザドクを祭司となせり三三かくてソロモンはエホバの位に坐しその父ダビデに代りて王となりその繁榮を極むイスラエルみな之に従がふ三四また一切の牧伯等勇士等およびダビデ王の諸の子等みなソロモン王に服事す三五エホバ、イスラエルの目の前にてソロモンを甚だ大ならしめ彼より前のイスラエルの王の未だ得たること有ざる王威を之に賜へり二六夫アツサイの子ダビデはイスラエルの全地を治めたり二七そのイスラエルを治めし間は四十年なり即ちへブロンにて七年世を治めエルサレムにて三十三年世を治めたり

き二八 選齡にいたり年も富も尊貴も満足て死に其子ソロモンこれに代りて王となる二九ダビデ王が始より終まで爲たる事等は先見者サムエルの書預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記さる三〇 其中にはまた彼の政治とその能力および彼とイスラエルと國々の諸の民に臨みしところの事等を載す